

Novell iManager

2.6

www.novell.com

管理ガイド

2005年10月12日



Novell®

法令通知

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容または本書を使用した結果について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、本書の商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。また、本書の内容は予告なく変更されることがあります。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また、ノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性について、いかなる明示的または黙示的な保証も否認し、排除します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、取引対象製品の輸出、再輸出または輸入に関し、国内外の輸出管理規定に従うこと、および必要な許可、または分類に従うものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出に関する詳細については、www.novell.com/info/exports/ を参照してください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2004-2005 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

本書に記載された製品で使用されている技術に関連する知的所有権は、弊社に帰属します。これらの知的所有権は、<http://www.novell.com/company/legal/patents/> に記載されている 1 つ以上の米国特許、および 1 つ以上の米国およびその他の国における追加特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.

www.novell.com

Novell iManager 2.6 管理ガイド
2005 年 10 月 12 日

オンラインドキュメント：この製品およびその他の Novell 製品に関するオンラインマニュアルにアクセスしたり、アップデートを手するには、<http://www.novell.com/documentation> を参照してください。

Novell の商標

ConsoleOne は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

DirXML は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

eDirectory は、米国 Novell, Inc. の商標です。

NetWare は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

NMAS は、米国 Novell, Inc. の商標です。

Novell は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

Novell Certificate Server は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における商標です。

Nsure は、米国 Novell, Inc. の米国ならびに他の国における登録商標です。

SUSE は、Novell の事業部である SUSE LINUX AG の登録商標です。

サードパーティの商標

サードパーティ各社とその製品の商標は、所有者であるそれぞれの会社に所属します。

目次

目次	5
このガイドについて	9
1 概要	11
バージョン 2.6 の新機能	11
追加情報の取得先	11
2 iManage へのアクセス	13
サポートされている Web ブラウザの使用	13
iManage へのアクセス	13
ポップアップを有効にする必要がある	14
アクセスモード	14
認証	15
[ツリー名] フィールド	15
レプリカのないサーバへのログイン	15
認証の失敗	15
期限切れパスワードの情報	15
iManager セッションタイムアウト	15
3 iManager インタフェース内での移動	17
iManager のインタフェース	17
ビュー	18
ナビゲーション領域	18
特殊文字	19
オブジェクトセレクタの使用	19
4 役割およびタスク	21
ディレクトリ管理	21
オブジェクトのコピー	21
オブジェクトの作成	22
オブジェクトの削除	22
オブジェクトの変更	22
オブジェクトの移動	24
オブジェクトのリネーム	24
グループ	25
グループの作成	25
グループの削除	25
グループの変更	25
グループのメンバーの変更	26
グループの表示	26
ヘルプデスク	26
ロックアウトのクリア	26
ユーザの作成	26
パスワードの設定	27

パーティションとレプリカ	27
パーティションを作成する	28
パーティションのマージ	29
パーティションの移動	29
レプリカの表示	30
パーティション情報の表示	31
フィルタ処理済レプリカウィザードの使用	31
権利	32
権利継承フィルタの変更	32
トラスティ権の変更	32
他のオブジェクトに対する権利	33
有効な権利の表示	33
スキーマ	33
属性の追加	34
属性情報の表示	34
クラス情報の表示	34
属性の作成	34
クラスの作成	35
属性の削除	35
クラスの削除	35
スキーマの拡張	36
オブジェクトの拡張	36
ユーザ	36
ユーザの作成	36
ユーザの削除	37
アカウントの無効化	37
アカウントの有効化	37
ユーザの変更	37
5 iManager の監査の構成	39
iManager での IMAN_EN.LSC ファイルのインストール	40
iManager での監査の有効化	40
6 iManager の設定とカスタマイズ	41
役割ベースサービス	41
eDirectory 内の RBS オブジェクト	43
RBS のインストール	45
RBS の設定	45
[役割] タブ	45
[タスク] タブ	47
[プロパティブック] タブ	48
[モジュール] タブ	49
[カテゴリ] タブ	49
RBS の削除	50
Plug-In Studio	51
メンバーの関連付けの編集	53
所有者コレクションの編集	53
暗号化属性と保護された通信	53
RBS レポート	54
レポートの作成	54
レポートの使用	55
iManager サーバ	58
iManager の設定	58
セキュリティ	58
外観	59
イベントをログに記録	59

認証	60
RBS	61
プラグインダウンロード	62
その他	62
オブジェクト作成リスト	63
作成リストへのオブジェクトクラスの追加	63
作成リストからのオブジェクトクラスの削除	63
Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)	63
利用できる Novell プラグインモジュール	63
[インストールされている Novell プラグインモジュール]	64
電子メール通知	64
メールサーバの設定	64
タスクイベント通知	64
ビュー	65
iManager ビュー	65
7 初期設定	67
一般	67
お気に入りの管理	67
オブジェクトセレクタ	67
オブジェクトビュー	68
初期ビューの設定	68
使用言語	68
8 トラブルシューティング	69
Apache ポートと Tomcat ポート	70
HP-UX	70
Linux	70
NetWare	70
Solaris	70
Windows	71
認証エラーメッセージ	71
HTTP 404 エラー	71
HTTP 500 エラー	71
634 エラーメッセージ	72
632 エラーメッセージ	72
601 エラーメッセージ	72
669 エラーメッセージ	72
eDirectory 管理タスクエラー	73
インストールおよび設定のデバッグメッセージの有効化	73
Firefox 1.0.6 の iManager プラグイン機能との非互換性	73
(Windows 2000 および Windows 2003 Server) Groupwise 7.0 WebAccess をインストールすると iManager が機能しなくなる	74
複数のユーザが同時にログインした場合に履歴の一覧が自動的に同期されない	74
iManager がデータベース内で SSL 証明書情報の更新に失敗した	74
NetWare 6.5 での iManager 2.6 リモートインストール	75
属性、オブジェクト、または値がないというエラー	75
Windows IIS サーバでの「ページが見つかりません」エラー	76
イメージソフトウェアからのシステム復元の実行	76
複数のプラグインをインストール中に、「利用不可能なサービス」というメッセージが表示される	76
[設定] ページに [Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] 役割がない	77
[設定] ビューに役割またはタスクが表示されない	77
表示されない可能性のある役割またはタスク	77
認証されたユーザでない場合に考えられる理由	78
「ユニバーサルパスワードステータスを判別できません」エラー	78

9	ベストプラクティスとよく寄せられる質問	79
	バックアップオプションと復元オプション	79
	iManager 2.0.2、2.5、および役割ベースサービスとの共存	80
	コレクション	80
	インストールの失敗	80
	Windows	81
	HP UX および Solaris	81
	Linux	82
	高可用性：クラスタ化された環境での iManager の実行	82
	iManager へのパッチの適用	83
	パフォーマンスの調整	83
	RBS でのダイナミックグループの使用	83
	役割の割り当て	84
	SLES 64-bit での iManager 2.6 の実行	84
A	Novell プラグインモジュール	85
	iManager プラグインのサポートに関するマニュアル	85
	BorderManager	85
	Certificate Server	86
	Configuring E-mail Notification	86
	DHCP	86
	eDirectory Backup and Restore	86
	eDirectory Log Files	86
	eDirectory Merge	86
	eDirectory Partition and Merge Management	87
	eDirectory Repair	87
	eGuide Content	87
	eMBox	87
	File Access (NetStorage)	87
	FTP Server for NetWare	87
	Health Monitoring Services	88
	iFolder Content	88
	iMonitor	88
	Import Convert Export Wizard (インポートコンバータエクスポートウィザード)	88
	iPrint	88
	iPrint Health Monitor for Linux	88
	LDAP	89
	Licenses	89
	Linux User Management	89
	Migration	89
	NMAS Plug-in	89
	Nsure Audit	89
	Novell Certificate Server	90
	QuickFinder Server Management	90
	Samba Management	90
	Service Manager	90
	SMS Backup and Restore	90
	SNMP	90
	Time Sync	91
	WAN Traffic Manager	91
	アーカイブのバージョン	91
	インデックス	91
	監査およびログ記録	91
	クラスタ	91
	ストレージ	92
	パスワード	92

このガイドについて

このガイドでは、Novell® iManager 2.6 を管理する方法について説明します。このガイドはネットワーク管理者を対象としており、次のセクションで構成されています。

- ◆ 11 ページの第 1 章「概要」
- ◆ 13 ページの第 2 章「iManage へのアクセス」
- ◆ 17 ページの第 3 章「iManager インタフェース内での移動」
- ◆ 21 ページの第 4 章「役割およびタスク」
- ◆ 39 ページの第 5 章「iManager の監査の構成」
- ◆ 41 ページの第 6 章「iManager の設定とカスタマイズ」
- ◆ 67 ページの第 7 章「初期設定」
- ◆ 69 ページの第 8 章「トラブルシューティング」
- ◆ 79 ページの第 9 章「ベストプラクティスとよく寄せられる質問」

その他のマニュアル

すべての Novell ソフトウェア製品のマニュアルは、www.novell.com/documentation (<http://www.novell.com/documentation>) で入手できます。

NetWare® のインストールと使用に関するマニュアルについては、[Novell NetWare マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/NetWare.html\)](http://www.novell.com/documentation/NetWare.html) を参照してください。

eDirectory™ のインストールと使用に関するマニュアルについては、[Novell eDirectory マニュアルの Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/eDirectory.html\)](http://www.novell.com/documentation/eDirectory.html) を参照してください。

サポートに関するマニュアルは、[Novell サポートの Web サイト \(http://support.novell.com\)](http://support.novell.com) で入手できます。

その他のマニュアルについては、11 ページの「追加情報の取得先」を参照してください。

マニュアルの更新

iManager に関する最新版のマニュアルは、[Novell のマニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) で入手できます。

マニュアルの表記規則

このマニュアルでは、不等号 (>) を使用して、操作手順の動作、およびクロスリファレンスパス内の項目を区切ります。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) はサードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (¥) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux* や UNIX* などのようにスラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

ご意見の宛先

本マニュアルおよび本製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にある [ご意見の宛先] 機能を使用するか、www.novell.com/documentation/feedback.html (<http://www.novell.com/documentation/feedback.html>) に移動して、ご意見を入力してください。

1

概要

Novell® iManager は Web ベースの管理コンソールです。iManager では、インターネットと Web ブラウザにアクセスできるすべての場所から、ネットワーク管理ユーティリティとコンテンツへのセキュアでカスタマイズされたアクセスを実現します。

iManager には、次の機能があります。

- ◆ Novell eDirectory™ のオブジェクト、スキーマ、パーティション、およびレプリカの一元管理
- ◆ 他の多くのネットワークリソースの一元管理
- ◆ iManager プラグインを使用した他の多くの Novell 製品の管理
- ◆ 委任管理のための RBS (役割ベースサービス)

バージョン 2.6 の新機能

Novell iManager 2.6 には、次の新機能があります。

- ◆ Novell Virtual Directory Services との統合
- ◆ プラグインモジュールの強化されたダウンロード

追加情報の取得先

Novell iManager の関連情報については、次の各 Web サイトを参照してください。

- ◆ Apache HTTP サーバ (<http://httpd.apache.org>)
- ◆ Tomcat サブレットコンテナ (<http://jakarta.apache.org/tomcat>)
- ◆ Java* Web サイト (<http://java.sun.com>)
- ◆ Microsoft* Windows* Web サービス (<http://www.microsoft.com/technet/treeview/default.asp?url=/technet/prodtechnol/iis/default.asp>)
- ◆ Novell eDirectory 製品ホームページ (<http://www.novell.com/products/edirectory>)
- ◆ Novell eDirectory 製品マニュアル (<http://www.novell.com/documentation/eDirectory.html>)
- ◆ Novell eDirectory Cool Solutions コミュニティ (<http://www.novell.com/coolsolutions/nds>)

2

iManage へのアクセス

Novell® iManager は、Web ブラウザを使用してアクセスされます。この章には、次のトピックが含まれています。

- ◆ サポートされている Web ブラウザの使用 (13 ページ)
- ◆ iManage へのアクセス (13 ページ)
- ◆ アクセスモード (14 ページ)
- ◆ 認証 (15 ページ)
- ◆ iManager セッションタイムアウト (15 ページ)

サポートされている Web ブラウザの使用

iManager にアクセスしてすべての iManager 機能を利用するには、次のいずれかの Web ブラウザを実行しているコンピュータを使用する必要があります。

- ◆ Microsoft* Internet Explorer 6.0 SP1
- ◆ Mozilla* 1.7.6
- ◆ Mozilla Firefox* 1.0.4

重要： その他の Web ブラウザを使用しても iManager にアクセスできますが、この方法によるアクセスはサポートしていません。また、上記以外のブラウザを使用した場合の正常な動作は保証されません。

iManage へのアクセス

- 1 サポートする Web ブラウザの [アドレス (URL)] フィールドに次のアドレスを入力します。

http://server_IP_address/nps/iManager.html

重要： URL では大文字と小文字が区別されます。

例：

http://127.0.0.1/nps/iManager.html

注： お使いのプラットフォームによっては、HTTPS セキュアページにリダイレクトされる場合があります。

iManager が標準のポート上で実行されていない場合は、iManager が実行されているポートを指定します。たとえば、Apache なしで Linux を使用している場合、URL は **http://server_IP_:port/nps/imanager.html** または **https://127.0.0.1:8443/nps/iManager.html** になります。

- 2 自分のユーザ名とパスワードを使用してログインします。

権利を持つ機能に対してのみアクセスできます。Novell iManager の機能をすべて使用するには、ツリーのスーパーバイザ / 管理者としてログインする必要があります。

ポップアップを有効にする必要がある

一部の iManager のウィザードとヘルプが動作できるように、Web ブラウザでポップアップウィンドウの表示を有効にしておく必要があります。ポップアップウィンドウをブロックするアプリケーションを使用している場合は、iManager で作業している間、ブロック機能を無効にするか、iManager ホストからのポップアップを許可するように設定します。

アクセスモード

iManager を起動すると、割り当てられている権利に基づいて「アクセスモード」が設定されます。iManager には 3 種類のアクセスモードがあります。現在のモードは、iManager インタフェースの左上隅に表示されます。

◆ 無制限アクセス

これは、RBS が設定される前のデフォルトモードです。このモードでは、インストールされているすべての役割とタスクが表示されます。すべての役割とタスクが表示されても、認証されたユーザがタスクを使用するには権利が必要です。

役割ベースサービスがインストールされているとしても、強制的に無制限アクセスにするユーザを `config.xml` ファイルに追加できる設定があります。すべてのユーザを強制的に無制限アクセスにするには、`tomcat_home/webapps/nps/WEB-INF` に格納されている `config.xml` ファイルにこの設定を追加し、Tomcat を再起動します。

```
<setting>
<name><![CDATA[RBS.forceUnrestricted]]></name>
<value><![CDATA[true]]></value>
</setting>
```

◆ 割り当てられたアクセス

認証されたユーザに割り当てられている役割とタスクのみが表示されます。このモードでは、役割ベースサービステクノロジーがフルに活用されています。

◆ コレクション所有者

コレクションにインストールされているすべての役割とタスクが表示されます。特定の役割が割り当てられていない場合でも、コレクション内にあるすべての役割とタスクを使用できます。このモードを使用するには、役割ベースサービスをインストールする必要があります。

注： コレクション所有者は、役割メンバーシップに関係なく、すべての役割とタスクを確認することができます。

認証

[ツリー名] フィールド

eDirectory™ がインストールされ、デフォルトポートである 524 以外のポートで実行されている場合、ポート（127.0.0.1: 1080 など）も指定していれば、eDirectory サーバの IP アドレスまたは DNS 名を使用してログインすることができます。ツリー名を使用してログインする場合は、ポートを指定する必要はありません。

[ツリー名] フィールドで使用できる値は、ツリー名、サーバの IP アドレス、およびサーバの DNS 名です。

最良の結果を得るには、IP アドレスを使用します。

レプリカのないサーバへのログイン

ツリー名を使用してツリーにログインしたことがある場合、またはレプリカのあるサーバを使用してツリーにログインしたことがある場合は、レプリカのないサーバにログインすることができます。

認証の失敗

ログインエラーは、さまざまな理由で発生します。認証に関するエラーメッセージについては、第 8 章「[認証エラーメッセージ](#)」(71 ページ) で説明します。

期限切れパスワードの情報

パスワードの有効期限が切れた場合は、その影響に関するメッセージがユーザに表示されます。ただし、ダイナミックグループ、単純な検索、単純なパスワードの設定などの操作によって猶予ログインがすぐに消費される場合があることにユーザが気付かない可能性があります。

このような操作は、ユーザがタスクを実行するたびに追加の猶予ログインを消費します。このメッセージが最初に表示されたときにパスワードを変更するようユーザに推奨することを強くお勧めします。

iManager セッションタイムアウト

iManager セッションタイムアウトは、webapps/nps/WEB-INF/ 内にある web.xml ファイルのタイムアウト設定によって制御されます。具体的には、コメントタグを削除して、タイムアウト値をデフォルトの 30 分から目的の値に変更します。この例を次に示します。

```
<session-config>  
<session-timeout>10</session-timeout>  
</session-config>
```


3

iManager インタフェース内での移動

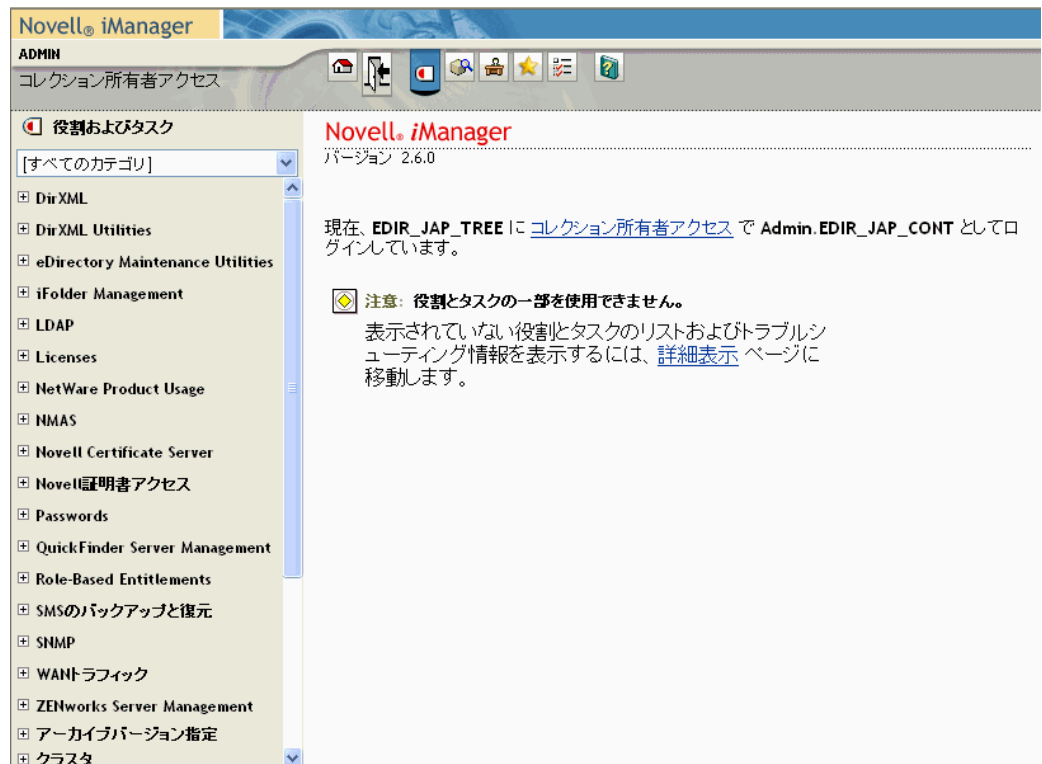
この章では、Novell® iManager 2.6 のインタフェース内で移動する方法について説明します。

- ◆ 17 ページの「iManager のインタフェース」
- ◆ 19 ページの「特殊文字」
- ◆ 19 ページの「オブジェクトセレクタの使用」

iManager のインタフェース

iManager 内を移動する際は、インタフェース内のボタンのみを使用します。Web ブラウザのツールバーボタン（[戻る] や [次へ] など）はサポートされていません。







図 1 iManager のデフォルトインタフェース：役割およびタスク



[初期設定] のデフォルトビューを変更するには、68 ページの「初期ビューの設定」を参照してください。

ビュー

iManager 2.6 には複数のビューがあります。各ビューへのアクセスには iManager インタフェースの上部に配置されているアイコンを使用します。

- ◆  役割およびタスク：実行を許可されているすべてのタスクが表示されます。デフォルトのビューです。
- ◆  オブジェクトの表示：オブジェクトを検索するための検索機能と参照機能が表示されます。
- ◆  設定：役割ベースサービス、iManager サーバ、オブジェクト作成リスト、プラグインのインストール、電子メール通知、およびビューが表示されます。これらはすべて自由に設定できます。
- ◆  お気に入り：[初期設定] > [お気に入り] の順に選択すると、最もよく使用するタスクが表示されます。
- ◆  初期設定：最もよく使用するタスクや、オブジェクトセレクタの表示方法、オブジェクトビューの表示方法、iManager へのログイン後に表示されるビュー、iManager で表示される言語に基づいて初期設定を設定します。
- ◆  ヘルプ：表示中のページに関する情報が表示されます。

デフォルトの [役割およびタスク] ビューを変更する方法については、[41 ページの第 6 章「iManager の設定とカスタマイズ」](#)を参照してください。

ナビゲーション領域

画面左側のナビゲーション領域には、選択した内容を表示するカテゴリドロップダウンメニューがあります。[役割およびタスク] ビューには、インストール済みのプラグインが表示されます。表示されるプラグインは以下のとおりです。

- ◆ Authentication & Passwords (認証およびパスワード)
- ◆ コラボレーション
- ◆ ディレクトリ
- ◆ File Management (ファイル管理)
- ◆ Identity Manager
- ◆ インフラストラクチャ
- ◆ インストールと更新
- ◆ ネットワーク
- ◆ Nsure Audit
- ◆ プリント
- ◆ セキュリティ
- ◆ サーバ
- ◆ Software Licenses & Network Usage (ソフトウェアライセンスおよびネットワークの使用法)
- ◆ ユーザとグループ

タスクは、カテゴリの下に順不同で表示されます。

特殊文字

iManager では一部の文字に特別な意味があり、円記号 (¥) 文字でエスケープする必要があります。

NDAP (NDS):

- ◆ ピリオド (.)
- ◆ 等号 (=)
- ◆ プラス記号 (+)
- ◆ 円記号 (¥)

LDAP:

- ◆ DN および = + ¥ @; < >
- ◆ 先頭の #
- ◆ 先頭および末尾のスペース

LDAP の場合、任意の文字を ¥xx で指定できます。詳細については、[RFC 2253 \(http://www.faqs.org/rfcs/rfc2253.html\)](http://www.faqs.org/rfcs/rfc2253.html) を参照してください。

オブジェクトセレクタの使用

iManager の検索機能であるオブジェクトセレクタを使用する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- ◆ ドット付きの NDS[®] 名では、次の文字を円記号 (¥) でエスケープする必要があります。
 - ◆ ピリオド (.)
 - ◆ 等号 (=)
 - ◆ プラス記号 (+)
 - ◆ 円記号 (¥)
- ◆ ほとんどの値では文字をエスケープする必要はありません。ただし、名前が識別名または相対識別名である場合は文字をエスケープする必要があります。
- ◆ 検索フィルタでは、次の文字を円記号 (¥) でエスケープする必要があります。
 - ◆ アスタリスク (*)
 - ◆ 円記号 (¥)

例 :

ピリオドを含むすべてのオブジェクトを検索する場合は、検索フィルタで「*.*」を使用します。

プラスを含むすべてのオブジェクトを検索する場合は、検索フィルタで「*+*」を使用します。

ただし、円記号を含むすべてのオブジェクトを検索する場合は、検索フィルタで「*¥¥*」を使用します。

4

役割およびタスク

[役割およびタスク] アイコンの選択時は、設定したすべての役割とタスクが表示されます。これらの役割とタスクは、iManagerの一部である場合とプラグインである場合があります。この章では、iManagerに組み込まれている役割とタスクについてのみ説明します。

- ◆ [ディレクトリ管理 \(21 ページ\)](#)
- ◆ [グループ \(25 ページ\)](#)
- ◆ [ヘルプデスク \(26 ページ\)](#)
- ◆ [パーティションとレプリカ \(27 ページ\)](#)
- ◆ [権利 \(32 ページ\)](#)
- ◆ [スキーマ \(33 ページ\)](#)
- ◆ [ユーザ \(36 ページ\)](#)

ディレクトリ管理

ディレクトリ管理には、ディレクトリツリー内のオブジェクトの管理が含まれます。ディレクトリ管理の一環として、オブジェクトの作成、編集、整理を行うことができます。

オブジェクトのコピー

既存のオブジェクトと同じ属性値を使用して新しいオブジェクトを作成することも、あるオブジェクトから別のオブジェクトに属性値をコピーすることもできます。

- 1** [役割およびタスク] で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトのコピー] の順にクリックします。
- 2** [コピー元のオブジェクト] フィールドで、オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、[オブジェクトセクタ] を使用してそれらを検索します。
- 3** 次のいずれかのオプションを選択します。
 - ◆ 新しいオブジェクトを作成して属性値をコピーする
 - ◆ 既存のオブジェクトに属性値をコピーする
- 4** このオブジェクトにアクセス制御リストの権利をコピーする場合は [ACL 権利のコピー] を選択します。

この手順を実行する場合、システムやネットワーク環境によっては処理時間が長くなる場合があります。

オブジェクトの作成

- 1 [役割およびタスク] で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトの作成] の順にクリックします。
- 2 表示されるリストからオブジェクトクラスを選択して、[OK.] をクリックします。
- 3 要求された情報を指定して [OK.] をクリックします。ここで指定する情報は選択したオブジェクトクラスによって異なります。
- 4 「オブジェクト作成要求は成功しました」という確認メッセージが表示されたら、[OK]、[タスクの繰り返し]、または [変更] をクリックします。

オブジェクトの削除

- 1 [役割およびタスク] で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトの削除] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、[オブジェクトセクタ] を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
「オブジェクト削除要求は成功しました」という確認メッセージが表示されます。

オブジェクトの変更

- 1 [役割およびタスク] で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトの変更] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
[オブジェクトの変更] 画面に、選択したオブジェクトそれぞれに固有の一連のタブが表示されます。各タブとそれらの機能の説明がこのタスクの下に表示されます。
- 3 選択したタブに必要な変更を加え、[OK] をクリックします。

一般

[一般] タブページをクリックすると、[識別] ページが表示されます。

- 1 フォームに次の情報を入力します。

- ◆ 別の名前
- ◆ 所有者
- ◆ 位置
- ◆ 部署
- ◆ 組織
- ◆ 説明

追加、削除、および編集の各機能を使用して説明を変更します。

- 2 [OK]、[キャンセル]、または [適用] をクリックします。

[参照] ページには、情報を参照する他のオブジェクトの検索に役立つ [オブジェクトセクタ] が表示されます。

[その他] ページには、[値がある属性] リストボックスと [値がない属性] リストボックスが表示されます。オブジェクトの属性の移動、編集、または削除を行うことができます。

セキュリティ

[セキュリティ] タブページには、選択したオブジェクトに応じて、次の属性オプションのいずれかまたは両方が表示されます。これらの属性は、ディレクトリ管理の権利を割り出すために使用されます。

- ◆ 同等セキュリティ保有者
この属性を使用して、このオブジェクトと同等のセキュリティが設定されている他のオブジェクトを指定します。
- ◆ 同等セキュリティ
この属性を使用して、このオブジェクトと同等のセキュリティが設定されているオブジェクトを指定します。

制限

[猶予ログイン制限] オプションを使用すると、有効期限の切れたパスワードを使用してログインできる回数を超えた場合、ユーザは必ずパスワードを変更しなければなりません。

ユーザに許可する同時接続の最大数を設定します。最大接続数は iManager サーバごとに指定します。iManager サーバはワークステーションの代わりとなります。

ダイナミック

[メンバークエリ] ページでは、ダイナミックグループオブジェクトのメンバーを検索する場合の検索条件を指定します。

- 1** スタティックグループをダイナミックグループにするために、[ダイナミックグループ] を選択します。
スタティックグループをダイナミックにした後に、スタティックな状態に戻す場合は、[ダイナミックグループ] オプションをオフにします。
- 2** [検索開始位置 (ベース DN)] テキストボックスに、検索を始める場所を入力します。
- 3** 検索スコープを指定します。
検索スコープを指定しない場合は、ベーススコープが適用されます。
 - ◆ [ベース DN を検索] : ベースオブジェクトのみを検索します。
 - ◆ [1つのレベルを検索] : ベースオブジェクト直下のサブオーディネートを検索します。ただし、ベースオブジェクト自体は検索されません。
 - ◆ [サブコンテナを検索] : ベースオブジェクトとその下のサブツリーにある全オブジェクトを検索します。
- 4** ダイナミックメンバーの検索に複数のサーバを関係させるか、またはダイナミックグループオブジェクトが含まれているサーバのみを関係させるかを選択します。
 - ◆ はい : サーバは、他のサーバと通信しながらダイナミックメンバーを検索します。
 - ◆ いいえ : ダイナミックメンバーの検索ではローカルの結果のみが返されます。
- 5** 2つの [検索フィルタ] アイコンを使用して検索を絞り込み、構文がわかっている場合は手動で文字列を編集できます。
- 6** 検索結果を更新する場合は、[適用] をクリックします。

[設定] ページでは、識別情報オブジェクトと他のオブジェクト関連の検索パラメータを設定します。

- 1 識別情報オブジェクトを選択します。

LDAP サーバが、クエリを実行するためにツリーにログインするときに使用するオブジェクトです。

- 2 検出したオブジェクトを iManager がロードするための適切な時間を設定する場合以外は、[タイムアウト] は空白のままにします。

iManager に設定したロード時間が不十分なためにタイムアウトになると、オブジェクトは利用できなくなります。オブジェクトを削除して、最初からやり直す必要があります。

- 3 ダイナミックグループメンバーを一覧にするときのサーバの負荷を軽減する場合は、[重複を許可] を選択します。

この機能の動作を十分に把握していない場合は、[重複を許可] はオフのままにしてください。

- 4 この機能の動作を十分に把握していない場合は、[重複を許可] はオフのままにします。

[不明を許可] の設定により、メンバーシップを正しく判別できない場合に、メンバーをダイナミックグループに含めるか、または除外するかが決定されます。

オブジェクトの移動

- 1 [役割およびタスク] で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトの移動] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、[オブジェクトセクタ] を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
- 3 [移動先] フィールドで、オブジェクトの移動先のコンテナを選択します。
- 4 オブジェクトの移動元の別名を作成する場合は、[移動したオブジェクトの代わりに別名を作成します] を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

次の確認メッセージが表示されます。オブジェクト移動要求は成功しました。

オブジェクトのリネーム

- 1 [役割およびタスク] で、[ディレクトリ管理] > [オブジェクトのリネーム] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索します。
- 3 新しいオブジェクトの名前のみを入力します。入力の際はコンテキストは含めません。
- 4 必要に応じて、[古い名前を保存] を選択します。

これにより、名前プロパティの正式ではない別の値として古い名前が保存されます。古い名前を保存すると、この名前に基づいてオブジェクトを検索できます。オブジェクトのリネーム後には、[General Identification (通常の識別)] タブの [別の名前] フィールドで古い名前を表示できます。

- 5 オブジェクトに付ける別名を作成する場合は、[リネームしたオブジェクトの代わりに別名を作成] を選択します。
これにより、新しい名前を反映して操作を更新するまで、古いオブジェクト名に依存する操作が実行されます。
- 6 [OK] をクリックします。
次の確認メッセージが表示されます。オブジェクトリネーム要求に成功しました。

グループ

グループを作成したユーザは、自動的にグループの所有者になります。グループは、選択したオプションに応じて、スタティックまたはダイナミックになります。

グループの作成

[グループの作成] ページで [ダイナミックグループ] チェックボックスをオンにした場合、その `dynamicGroup` クラスのグループはダイナミックになります。

[グループの作成] ページでグループを作成するときに [ダイナミックグループ] チェックボックスをオフにした場合、このグループクラスのグループはスタティックになります。このグループは手動で編集することができます。

[グループの作成] ページでグループをスタティックグループとして作成し、その後でそのグループをダイナミックに変えた ([グループの変更] > [ダイナミック] > [ダイナミックグループ] の順に選択した) 場合、iManager では `dynamicGroupAux` クラスに属するオブジェクトが拡張されます。

重要： このとき、RBS を使用している場合は、`dynamicGroupAux` クラスのサポートを有効にする必要があります。[設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [RBS] > [ダイナミックグループの検索タイプ] の順に選択します。ドロップダウンメニューから [DynamicGroupObjects&AuxClasses] を選択して、[保存] をクリックします。

グループの削除

([単一オブジェクトの選択]、[複数オブジェクトの選択]、[単純な選択]、または [高度な選択] から) 削除するオブジェクトを指定して、[OK] をクリックします。

グループの変更

[設定] ページでは、識別情報オブジェクトと他のオブジェクト関連の検索パラメータを設定します。検索を実行するため、サーバでは、具体的な識別情報を使用して、検索結果が常に一貫性を保つようにします。識別情報オブジェクトには認証アカウント情報を与えて、サーバが識別情報オブジェクトとして認証できるようにする必要があります。識別情報オブジェクトには、パスワードを設定する必要があります。

たとえば、[フィルタ] を (&(title=manager)) に設定すると、[Public] 識別情報では、タイトルやその他多くの属性を読み取りまたは比較できない可能性があります。識別情報オブジェクトには、ダイナミックグループメンバーシップを判別するために、ベース DN レベル以下のレベルに対する十分な権限が必要です。

重要： RBS を使用しているときにこのページでダイナミックグループを作成する場合は、`dynamicGroupAux` クラスのサポートを有効にする必要があります。[設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [RBS] > [ダイナミックグループの検索タイプ] の順に選択します。ドロップダウンメニューから [DynamicGroupPbjects&AuxClasses] を選択して、[保存] をクリックします。

[メンバークエリ] ページでは、グループのメンバーを検索する場合の検索条件を指定します。

- ◆ 検索開始位置：検索を始める場所（開始点）。
- ◆ 検索スコープ：検索の深さと幅を定義します。
- ◆ 複数サーバの検索：ダイナミックメンバーを複数のサーバにわたって検索するのか、それともダイナミックグループオブジェクトが含まれているサーバのみを検索するのかを表します。[複数サーバの検索] が [はい] に設定されている場合、サーバは、必要に応じて他のサーバと通信しながらダイナミックメンバーを検索します。[複数サーバの検索] が [いいえ] に設定されている場合、ダイナミックメンバーの検索では、他のサーバとは通信を行わず、ローカルの結果のみを返します。この拡張機能を使用する場合は注意が必要です。操作に長時間かかる可能性があります。
- ◆ 検索フィルタ：検索フィルタには、高度な検索条件用と編集用の 2 つのボタンがあります。検索条件の詳細については、次の Web サイトを参照してください。
[The String Representation of LDAP Search Filters \(http://ietf.org/rfc/rfc2254.txt\)](http://ietf.org/rfc/rfc2254.txt)
- ◆ 検索結果：結果を更新する場合は、[適用] をクリックします。

グループのメンバーの変更

この機能を使用すると、指定したグループのすべてのメンバーを任意に変更できるようになります。

グループの表示

このページには、所有しているグループが表示されます。新しいグループの作成や、既存のグループの編集または削除を行うことができます。

ヘルプデスク

ヘルプデスクは、数多くあるユーザ関連のタスクの中のごく一部について許可を与えると、限定的な役割を果たします。この役割を担うユーザは、ユーザロックアウトのクリアや、ユーザの作成、新しいパスワードの設定などを行うことができます。

ロックアウトのクリア

ユーザは、無効なパスワードを何度も入力した場合、または期限切れのパスワードを使用してログインしようとした場合にロックアウトされます。

ロックアウトをクリアするには、ユーザ名を入力して [OK] をクリックします。

ユーザの作成

[ユーザの作成] タスクにアクセスするには、[ユーザ] > [ユーザの作成] の順に選択します。

- 1 [役割およびタスク] で、[ヘルプデスク] > [ユーザの作成] の順にクリックします。
- 2 フォームに次の情報を入力します。
 - ◆ ユーザ名（必須）
 - ◆ 名

- ◆ 姓 (必須)
- ◆ フルネーム
- ◆ コンテキスト (必須)
- ◆ パスワード (2 回)

重要: パスワードを入力しないと、プロンプトが表示されます。ユーザにパスワードなしでログインすることを許可するか否かを選択することができます。

- 3 (オプション) [単純パスワードを設定] を選択します。

Windows* および Macintosh* ユーザのネイティブファイルアクセスには、単純パスワードが必要です。ユニバーサルパスワードが有効であれば、この設定は不要です。

- 4 (オプション) [テンプレートまたはユーザオブジェクトからコピー] を選択します。

テンプレートまたはユーザオブジェクトが使用されるのは、対応する [ユーザの作成] フィールドが空白になっている場合のみです。ユーザオブジェクトからコピーする場合、iManager では、NDS 権利のコピーではなく New Object NDS (オブジェクト NDS の新規作成) 権利のコピーだけを許可して、ユーザが管理者と同じ権利を得ることがないようにします。

- 5 (オプション) [ホームディレクトリの作成] を選択します。

スーパーバイザ権を除くすべての権利が与えられます。既存のパスを指定した場合は、ユーザディレクトリが作成されます。存在しないパスを指定した場合は、ユーザのホームディレクトリが作成されなかったというメッセージが表示されます。

- 6 フォームの残りの部分に適切な情報を入力して、[OK] をクリックします。

パスワードの設定

- 1 [役割およびタスク] で、[ヘルプデスク] > [パスワードの設定] の順にクリックします。
- 2 ユーザオブジェクトのコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索します。
- 3 新規パスワードを 2 回入力します。
- 4 [単純パスワード] を選択します。

Windows および Macintosh ユーザのネイティブファイルアクセスには、単純パスワードが必要です。ユニバーサルパスワードが有効であれば、この設定は不要です。

パーティションとレプリカ

パーティションは、Novell® ディレクトリデータベースの論理的な仕切りであり、ディレクトリツリーにおけるデータの明確な単位を形成します。管理者は、この単位でディレクトリ情報の保存や複製を行います。個々のパーティションは、すべてのオブジェクトが格納されたコンテナオブジェクトと、それらのオブジェクトに関する情報で構成されています。パーティションには、ファイルシステムやファイルシステムに格納されているディレクトリおよびファイルに関する情報は含まれていません。

各サーバに eDirectory データベース全体のコピーを保存するのではなく、eDirectory パーティションのコピーを作成し、そのコピーをネットワーク全体の多数のサーバ上に保存することができます。パーティションの各コピーはレプリカと呼ばれます。各 eDirectory パーティションで作成できるレプリカの数に制限はなく、作成したレプリカはどのサーバにも保存できます。レプリカには次のタイプがあります。

- ◆ マスタ、読み書き可能、および読み込み専用
特定のパーティションのすべてのオブジェクトと属性が含まれます。
- ◆ サブオーディネートリファレンス
ツリー接続のために使用されます。
- ◆ Filtered (フィルタ済み)
これらのレプリカには、パーティション全体からの情報のサブセットが含まれ、サーバのレプリケーションフィルタで定義されている目的のクラスと属性のみで構成されます。このフィルタは、着信同期とローカルでの変更時に渡すことができるクラスと属性を識別するために使用されます。
フィルタ済みレプリカによって、管理者はスパースレプリカと断片レプリカを作成できます。
 - ◆ スパースレプリカには、指定したオブジェクトクラスのみが含まれます。
 - ◆ 断片レプリカには、指定した属性のみが含まれます。
 フィルタ済みレプリカの機能により、eDirectory に保存されているデータをアプリケーションがすばやく取得できるようになります。フィルタ済みレプリカでは、より多くのレプリカを1台のサーバに保存できます。
- ◆ Read/write filtered (フィルタ済み読み込み / 書き込み)
これらのレプリカでは、サーバのレプリケーションフィルタのサブセットであるクラスと属性をローカルで変更できます。ただし、これらのレプリカを作成できるのは、レプリケーションフィルタ内にそのクラスの必須属性がすべて含まれている場合のみです。
- ◆ Read-only filtered (フィルタ済み読み込み専用)
これらのレプリカをローカルで変更することはできません。

詳細については、『eDirectory 管理ガイド』の「パーティションおよびレプリカの管理」(<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a2iiiiik.html>) を参照してください。

パーティションを作成する

パーティションを作成する場合はツリーの論理区分を作成することになります。これらの論理区分は、ネットワーク内にある別の eDirectory サーバ間で複製することも配布することもできます。新しいパーティションを作成する際は、ペアレントパーティションからその新しいパーティションを分離することになります。したがって、新しいパーティションはチャイルドパーティションになります。

たとえば、1つの部門を選択し、これを新しいパーティションとして作成する場合、選択した部門とその従属オブジェクトすべてをペアレントパーティションから分割することになります。選択した部門が新しいパーティションのルートになります。新しいパーティションのレプリカは、ペアレントのレプリカと同じサーバに存在します。また、新しいパーティションに含まれているオブジェクトは、そのパーティションのルートオブジェクトに属します。

- 1 [役割およびタスク] で、[パーティションとレプリカ] > [パーティションの作成] の順にクリックします。
- 2 コンテナの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。

数秒後に次の確認メッセージが表示されます：「完了：パーティションの作成」。

パーティションのマージ

パーティションをペアレントパーティションとマージすると、選択したパーティションとそのレプリカはペアレントパーティションに結合されます。このとき、パーティションを削除することはありません。ディレクトリツリーをどのように論理区分に分割するかを定義するためにパーティションのマージと作成を行うことになります。

パーティションをペアレントパーティションとマージする理由として以下の項目を挙げるができます。

- ◆ 2つのパーティションのディレクトリ情報が密接に関連している。
- ◆ 従属パーティションを削除する予定だが、その中のオブジェクトは残しておきたい。
- ◆ パーティション内のオブジェクトを削除する。
- ◆ パーティションのすべてのレプリカを削除する。(パーティションのマスタレプリカを削除する唯一の方法は、パーティションをそのペアレントにマージすることです。)
- ◆ コンテナを移動した後 (パーティションのルートに従属パーティションがない場合のみ)、このコンテナをパーティションにしておく必要がなくなった。
- ◆ 会社の組織に変更が生じたため、パーティション構造を変更してディレクトリツリーを再設計する。

パーティションのマージを行う前は、両方のパーティションが同期していることを確認し、処理を続行する前にすべてのエラーを修正します。エラーを修正しておくことで、ディレクトリで問題が発生することを回避することができます。また、エラーの伝播や新しいエラーの発生を防ぐこともできます。パーティションのマージを行う前に、マージするパーティションのレプリカ (サブオーディネートリファレンスを含む) を持つすべてのサーバが稼働していることを確認します。サーバがダウンしている場合、eDirectory はサーバのレプリカを読み込むことができず、操作を完了できません。

パーティションのマージ中にエラーメッセージが表示された場合は、その都度エラーを解決します。操作を続けながらエラーを修正することは避けてください。操作を続行した場合、さらなるエラーが発生することになります。

チャイルドパーティションをペアレントパーティションとマージするには、次の手順に従います。

- 1** [役割およびタスク] で、[パーティションとレプリカ] > [パーティションのマージ] の順にクリックします。
- 2** パーティションの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。

数秒後に次の確認メッセージが表示されます: 「完了: パーティションのマージ」。

パーティションの移動

パーティションを移動すると、ディレクトリツリー内のサブツリーを移動することができます。パーティションの (コンテナオブジェクトである) ルートオブジェクトは、サブオーディネートパーティションがない場合のみ移動できます。

パーティションを移動する場合は、eDirectory の格納ルールに従う必要があります。たとえば、ルートの格納ルールでは地域、国、または組織は許可されても部門は許可されないため、現在のツリーのルート直下にある部門を移動することはできません。

パーティションを移動する場合、eDirectory ではパーティションのルートオブジェクトへのすべての参照が変更されます。オブジェクトの共通名は変更されませんが、コンテナ（およびすべてのサブオーディネート）の完全名は変更されます。

- 1 [役割およびタスク] で、[パーティションとレプリカ] > [パーティションの移動] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索します。
- 3 [移動先] テキストボックスに、パーティションの移動先となる場所を入力します。
- 4 [移動したオブジェクトの代わりに別名を作成します] を選択して、[OK] をクリックします。

これにより、新しい場所を反映して操作を更新するまで、古い場所に依存する操作が続行されます。ユーザは、引き続きネットワークにログインし、元のディレクトリの場所でオブジェクトを検索できます。

作成された別名オブジェクトは移動されたコンテナと同じ共通名を持ち、移動されたコンテナの新しい完全名を参照します。

パーティションを移動する前に、ディレクトリツリーが正しく同期していることを確認します。移動元か移動先のいずれかのパーティションで同期エラーが発生している場合は、パーティションの移動操作を実行しないでください。まず最初に、同期エラーを解決してください。パーティションの移動後、そのパーティションをパーティションのままにしておきたくない場合は、ペアレントパーティションとマージします。

レプリカの表示

レプリカに関する情報を表示すると、レプリカの状態を確認することができます。eDirectory レプリカは、実行しているパーティションや複製の操作によってさまざまな状態になります。

- 1 [役割およびタスク] で、[パーティションとレプリカ] > [レプリカビュー] の順にクリックします。
- 2 表示するレプリカテーブルのあるパーティションまたはサーバを選択して、[OK] をクリックします。

テーブルに、レプリカのパーティション、タイプ、フィルタ、状態が表示されます。iManager で表示されるレプリカの状態を次の一覧に示します。

- ◆ On : パーティションや複製の操作をその時点で実行していない
- ◆ 新規 : サーバに新しいレプリカとして追加中
- ◆ 停止中 : サーバから削除中
- ◆ 停止 : サーバからの削除が完了
- ◆ マスタ開始 : マスタレプリカへ変更中
- ◆ マスタ完了 : マスタレプリカへの変更が完了
- ◆ Change Type (タイプの変更) : 他のレプリカタイプへの変更中
- ◆ ロック状態 : パーティションの移動または修復の操作の準備が滞っている
- ◆ 移動へ移行 : パーティションの移動操作を開始中
- ◆ 移動 : パーティションの移動操作中

- ◆ 分割へ移行：パーティションの分割操作（チャイルドパーティションの作成）を開始中
- ◆ 分割：パーティションの分割（チャイルドパーティションの作成）操作中
- ◆ 結合：ペアレントパーティションへのマージ中
- ◆ トランジションオン：オン状態へ戻る直前
- ◆ 不明：iManager で認識できない状態

詳細については、『*eDirectory 管理ガイド*』の「[レプリカビュー](http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/fbgeaaeg.html#fbgeaaeg)」(<http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/fbgeaaeg.html#fbgeaaeg>)を参照してください。

パーティション情報の表示

パーティションの詳細については、『*eDirectory 管理ガイド*』(<http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/fbgeaaeg.html#a2iijy>)を参照してください。

- 1 [役割およびタスク] で、[パーティションとレプリカ] > [パーティション情報の表示] の順にクリックします。
- 2 パーティションオブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。

フィルタ処理済レプリカウィザードの使用

一般的に、管理者はフィルタ済みレプリカのセットを保持する eDirectory サーバを作成するためにフィルタ済みレプリカ機能を使用します。フィルタ済みレプリカのセットには、同期するオブジェクトと属性のみが含まれます。フィルタ済みレプリカには、eDirectory パーティションの情報のフィルタ済みサブセット（オブジェクトまたはオブジェクトクラス、およびこれらのオブジェクトの属性と値のフィルタ済みセット）が保存されています。

フィルタ処理済レプリカウィザードを使用すると、選択したサーバ上のフィルタ済みレプリカを、表示される手順に従って設定できます。

- 1 [役割およびタスク] で、[パーティションとレプリカ] > [フィルタ処理済レプリカウィザード] の順にクリックします。
- 2 フィルタ済みレプリカを構成するサーバの名前またはコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[次へ] をクリックします。
- 3 選択したサーバに設定されているフィルタのクラスと属性を定義する場合は、[フィルタセットの定義] をクリックします。
レプリケーションフィルタには、サーバのフィルタ済みレプリカセットに保存する eDirectory クラスと属性のセットが含まれます。
- 4 [次へ] > [終了] の順にクリックします。

詳細については、『*eDirectory 8.7.3 管理ガイド*』の「[フィルタ済みレプリカを設定し管理する](http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/a5lhibw.html)」(<http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/a5lhibw.html>)を参照してください。

権利

eDirectory トラスト権とトラスティを参照する権利。ツリーを作成する場合、デフォルトの権利を割り当てると、ネットワークへの汎用アクセスとセキュリティが与えられます。デフォルトの割り当ての一部を次に示します。

- ◆ ユーザ **Admin** はツリーの最上位に対してスーパーバイザ権を持ちます。これにより、**Admin** はディレクトリ全体を完全に制御できます。また、**Admin** は、**NetWare** サーバオブジェクトに対するスーパーバイザ権を持ち、サーバ上のすべてのボリュームを完全に制御できます。
- ◆ **[Public]** はツリーの最上位のブラウズ権を持ちます。これにより、すべてのユーザがツリー内のすべてのオブジェクトを表示する権利を持つこととなります。
- ◆ **NetWare** での移行、印刷アップグレード、または **Windows NT*** でのユーザ移行などのアップグレードプロセスを通じて作成したオブジェクトは、ほとんどの場合に適切なトラスティを割り当てられます。

権利の割り当てには、トラスティとターゲットオブジェクトが関係します。トラスティとは、権限を付与される単一のユーザまたはユーザの集合です。ターゲットとは、ユーザが権限を持つネットワークリソースです。

権利継承フィルタの変更

eDirectory では、コンテナでの権利の割り当てが継承可能である場合も継承不能である場合もあります。**NetWare** ファイルシステムでは、フォルダでのすべての権利の割り当てが継承可能です。**eDirectory** と **NetWare** のいずれでも、トラスティがだれであるかに関係なく、個別の下位の項目で権利が有効にならないように、下位の項目での権利の継承を阻止できます。ただし、**NetWare** ファイルシステムでは、スーパーバイザ権の継承を阻止することはできません。

eDirectory ツリーに沿って権利が下位に継承されることを阻止できます。

- 1** [役割およびタスク] で、[権利] > [権利継承フィルタの変更] の順に選択します。
- 2** 権利継承フィルタを変更するオブジェクトの名前とコンテキストを指定して、[OK] をクリックします。
これにより、オブジェクトにすでに設定されている権利継承フィルタの一覧が表示されます。
- 3** プロパティページで、必要に応じて権利継承フィルタの一覧を編集します。
注： このオブジェクト上でトラスティが明示的に与えられた権利は継承されないため、このような権利は継承されません。
- 4** フィルタのリストを編集するには、オブジェクトの **ACL** プロパティに対するスーパーバイザ権またはアクセス制御権を持っている必要があります。オブジェクト全体、オブジェクトのすべてのプロパティ、および個別のプロパティに対する権利の継承を阻止するフィルタを設定できます。次に、[OK] をクリックします。

トラスティ権の変更

- 1** [役割およびタスク] で、[権利] > [トラスティの変更] の順に選択します。
- 2** 権利を表示するトラスティの名前を指定して、[OK] をクリックします。
- 3** 表示して変更するために [割り当てられた権利] をクリックします。

- 4 行う作業に応じて、[トラスティの追加] または [トラスティの削除] をクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

他のオブジェクトに対する権利

このタスクを使用すると、トラスティが明示的な権利を所有するオブジェクトを表示および変更できます。

[トラスティ名] フィールドと [検索範囲のコンテキスト] フィールドに入力します。iManager では、コンテキスト内に定義したコンテナのスコープ内のトラスティ名を検索します。

有効な権利の表示

ユーザは、明示的なトラスティの割り当て、継承、および同等セキュリティなどの多数の方法で権利を受け取ることができます。権利は、権利継承フィルタにより制限したり、下位レベルのトラスティ割り当てによって変更または取り消したりできます。このような操作による最終結果、つまり、ユーザが実際に行使できる権利を「*有効な権利*」といいます。

ユーザが操作を実行しようとするたびに、オブジェクトに対するユーザの有効な権利が計算されます。有効な権利を表示するには、次の手順に従います。

- 1 [役割およびタスク] で、[権利] > [有効な権利の表示] の順に選択します。
- 2 権利を表示するトラスティの名前を指定して、[OK] をクリックします。
- 3 有効な権利を表示するオブジェクト名を指定します。

スキーマ

スキーマは、ツリー内で作成できるオブジェクトのタイプ（ユーザ、プリンタ、グループなど）、およびオブジェクトの作成時に使用する必須情報とオプション情報を定義します。どのオブジェクトにも、そのオブジェクトタイプについて定義されているスキーマクラスがあります。クラスとは、オブジェクトの一連のルールのようなものです。オブジェクトは、そのクラスのルールに応じて作成されたデータを持つ新しいレコードです。クラスは、クラス名、継承クラス（そのクラスがクラス階層の最上位である場合を除く）、クラスフラグ、および属性のグループを持ちます。クラスは、オブジェクト（ユーザ、プリンタ、キュー、サーバなど）と同じように命名されますが、単なる構造とルールであり、内容はありません。

eDirectory に付属しているスキーマは、基本スキーマです。基本スキーマは、新しいクラスや属性の追加などによって変更されると、拡張スキーマとみなされます。

スキーマは必ずしも拡張する必要はありませんが、拡張することもできます。iManager のスキーマ役割を使用すれば、組織のニーズに合わせてスキーマを拡張できます。たとえば、従業員に特殊な履き物が必要で、従業員の靴のサイズを記録しなければならない場合に、スキーマを拡張します。この場合は、「靴のサイズ」という属性を新しく作成し、User クラスに追加します。

属性の追加

組織の情報に関するニーズが変わった場合、またはツリーのマージを準備している場合に、オプション属性を既存のクラスに追加できます。

注： 必須属性は、クラスの作成時にのみ定義できます（必須属性は、オブジェクトが作成されているときに、必ず入力する必要がある属性です）。

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [属性の追加] の順にクリックします。
- 2 属性を追加するクラスを選択して、[OK] をクリックします。
- 3 [使用可能なオプション属性] リストで追加する属性を選択し、右矢印をクリックして [追加するオプション属性] リストにこれらの属性を追加します。

属性の追加を途中で取り消したい場合は、[追加するオプション属性] リストでその属性を選択した後に左矢印をクリックすれば、追加する属性のリストからその属性を取り除くことができます。

- 4 [OK] をクリックします。

これで、このクラスで作成したオブジェクトには、プロパティが追加されました。追加したプロパティの値を設定するには、オブジェクトの汎用の [その他] プロパティを使用します。

ヒント： このページを使用して [Current Attributes (現在の属性)] リストに追加すると、既存のクラスを変更できます。削除できる属性は、[OK] をクリックする前に追加した属性だけです。それ以前に追加して保存した属性は削除できません。

属性情報の表示

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [属性の情報] の順にクリックします。
- 2 情報を表示する属性を選択して、[表示] をクリックします。

クラス情報の表示

[クラス情報] ページでは、選択したクラスに関する情報が表示され、属性を追加できます。このページに表示される情報のほとんどは、クラスの作成時に指定されたものです。一部のオプション属性は、後から追加されたものである場合があります。

クラスの作成時に、別のクラスから属性を継承するように指定している場合は、継承された属性はペアレントクラス内の分類と同じように分類されます。たとえば、ペアレントクラスでオブジェクトクラスが必須の属性である場合、この画面で選択したクラスについても必須の属性として表示されます。

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [属性の情報] の順にクリックします。
- 2 情報を表示するクラスを選択して、[表示] をクリックします。

属性の作成

クラスをフォームに例えると、属性はそのフォーム上にある 1 つのフィールドといえます。属性は作成されると、名前（「姓」や「従業員番号」など）が付けられ、構文タイプ（「A ~ Z や 0 ~ 9 という文字列」や「-999 ~ 999 の範囲の数値」など）が指定されます。それ以降、この属性は属性リストで使用できます。

属性のカスタムタイプを独自に定義し、それをオプション属性として既存のオブジェクトクラスに追加できます。ただし、必須属性を既存のクラスに追加することはできません。

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [属性の作成] の順にクリックします。
- 2 属性の作成手順の最初から終わりまで、属性の作成ウィザードに従います。

クラスの作成

クラスとは、オブジェクトの一連のルールのようなものです。オブジェクトは、そのクラスのルールに応じて作成されたデータを持つ新しいレコードです。クラスは、クラス名、継承クラス（そのクラスがクラス階層の最上位である場合を除く）、クラスフラグ、および属性のグループを持ちます。クラスは、オブジェクト（ユーザ、プリンタ、キュー、サーバなど）と同じように命名されますが、単なる構造とルールであり、内容はありません。

補助クラスとは、オブジェクトのクラス全体ではなく特定のオブジェクトに追加される一連のプロパティ（属性）です。たとえば、電子メールアプリケーションの場合、電子メールプロパティという補助クラスを含むようにeDirectoryツリーのスキーマを拡張し、必要に応じてこれらのプロパティを使用して個々のオブジェクトを拡張できます。

Schema Manager を使用すると、独自の補助クラスを定義できます。次に、その補助クラスで定義されているプロパティを使用して個々のオブジェクトを拡張できます。

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [クラスの作成] の順にクリックします。
- 2 クラス名と（オプションの）ASN1 ID を指定し、[次へ] をクリックします。
- 3 クラスフラグを設定する場合は、[補助クラス] を選択して [次へ] をクリックします。
- 4 クラスの作成ウィザードに従って、新しい補助クラスを定義します。

属性の削除

eDirectory ツリーの基本スキーマの一部でない未使用の属性は削除することができます。

属性の削除を検討する必要があるのは、次の2つの状況です。

- ◆ 2つのツリーをマージして属性の違いを解決した後
 - ◆ いつでも属性が使用されなくなった場合
- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [属性の削除] の順にクリックします。
 - 2 削除する属性を選択します。
削除可能な属性のみが表示されます。
 - 3 [Delete] をクリックします。

クラスの削除

eDirectory ツリーの基本スキーマの一部になっていない未使用のクラスは削除することができます。iManager では、ローカルで複製されたパーティションで現在使用されていないクラスだけが削除されることはありません。

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [クラスの削除] の順にクリックします。
- 2 削除するクラスを選択します。
削除可能なクラスのみが表示されます。
- 3 [Delete] をクリックします。

スキーマの拡張

新しいクラスまたは属性を作成することにより、ツリーのスキーマを拡張できます。eDirectory ツリーのスキーマを拡張するには、ツリー全体に対する管理者 / スーパーバイザ権が必要です。

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [スキーマの拡張] の順にクリックします。
- 2 ICE* ウィザードに従って、データのインポート、エクスポート、移行、またはスキーマの更新および比較操作を行います。

オブジェクトの拡張

- 1 [役割およびタスク] で、[スキーマ] > [オブジェクトの拡張] の順にクリックします。
- 2 拡張するオブジェクトの名前とコンテキストを指定して、[OK] をクリックします。
- 3 使用する補助クラスが [現在の補助クラスの拡張] の下にすでに表示されているかどうかに応じて、次のいずれかをクリックします。
 - ◆ はい：この手順を終了します。『eDirectory 管理者ガイド』の「オブジェクトの補助プロパティを変更する」(<http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/fbbdchgh.html#a3olrac>) を参照してください。
 - ◆ いいえ：[追加] をクリックし、補助クラスを選択して [OK] をクリックします。
- 4 [閉じる] をクリックします。

ユーザ

一般的な情報については、「Plan Users and Groups」(<http://www.novell.com/documentation/nw312/instlenu/data/a4qsie4.html>) を参照してください。

ユーザの作成

- 1 [役割およびタスク] で、[ユーザ] > [ユーザの作成] の順にクリックします。
- 2 フォームに次の情報を入力します。
 - ◆ ユーザ名 (必須)
 - ◆ 名
 - ◆ 姓 (必須)
 - ◆ フルネーム
 - ◆ コンテキスト (必須)
 - ◆ パスワード (2 回)

重要： パスワードを入力しないと、プロンプトが表示されます。ユーザにパスワードなしでログインすることを許可するか否かを選択することができます。

- 3 (オプション) [単純パスワードを設定] を選択します。

Windows および Macintosh ユーザのネイティブファイルアクセスには、単純パスワードが必要です。ユニバーサルパスワードが有効であれば、この設定は不要です。

- 4 (オプション) [テンプレートまたはユーザオブジェクトからコピー] を選択します。
テンプレートまたはユーザオブジェクトが使用されるのは、対応する [ユーザの作成] フィールドが空白になっている場合のみです。ユーザオブジェクトからコピーする場合、iManager では、NDS 権利のコピーではなく New Object NDS (オブジェクト NDS の新規作成) 権利のコピーだけを許可します。
- 5 (オプション) [ホームディレクトリの作成] を選択します。
スーパーバイザ権を除くすべての権利が与えられます。[ボリューム] フィールドと [パス] フィールドは必須です。既存のパスのみを指定した場合は、ユーザのホームディレクトリが作成されなかったというメッセージが表示されます。
- 6 [OK] をクリックします。

ユーザの削除

- 1 [役割およびタスク] で、[ユーザ] > [ユーザの削除] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
- 3 [Delete] をクリックします。
次の確認メッセージが表示されます。完了: The Delete User request succeeded (ユーザの削除要求に成功しました)。

アカウントの無効化

- 1 [役割およびタスク] で、[ユーザ] > [アカウントを無効にする] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
- 3 [無効] をクリックします。

アカウントの有効化

- 1 [役割およびタスク] で、[ユーザ] > [アカウントを有効にする] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
- 3 [有効] をクリックします。

ユーザの変更

- 1 [役割およびタスク] で、[ユーザ] > [ユーザの変更] の順にクリックします。
- 2 オブジェクトの名前とコンテキストを入力するか、検索機能を使用してそれらを検索して、[OK] をクリックします。
次のタブが表示され、さまざまなプロパティが表示されるページが起動します。
 - ◆ 一般
 - ◆ セキュリティ
 - ◆ 制限インストールしたプラグインの他のタブも表示されます。
- 3 変更を行い、[適用] をクリックしてプレビューするか、[OK] をクリックして保存します。

5

iManager の監査の構成

iManager の監査タスクでは、Nsure[®] Audit を使用します。詳細については、『*Nsure Audit Administration Guide*』(<http://www.novell.com/documentation/nsureaudit/index.html>) を参照してください。

Nsure には、次のインストール条件があります。

- ❑ Nsure Audit 1.0.3 を使用したディレクトリツリー内のサーバ (NetWare[®], Solaris*, Windows*, Linux*)。 [installation instructions \(http://www.novell.com/documentation/nsureaudit/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/nsureaudit/index.html) を参照してください。
- ❑ iManager サーバまたは Mobile iManager デスクトップにインストールされ、Secure Logging Server をポイントするように構成されている Audit Platform Agent。

Nsure Audit は、次のイベントに関するデータをキャプチャします。

- ◆ Added Authorized User (許可されたユーザの追加)
- ◆ Successful Login (ログインの成功)
- ◆ Successful NPM Install (NPM インストールの成功)
- ◆ Startup iManager (iManager の起動)
- ◆ Failed SSL Connection (SSL 接続の失敗)
- ◆ Logout (ログアウト)
- ◆ Changed Configuration (設定の変更)
- ◆ Failed Login (ログインの失敗)
- ◆ Failed NPM Install (NPM インストールの失敗)
- ◆ Shutdown iManager (iManager のシャットダウン)

このデータが含まれている IMAN_EN.LSC ファイルは、nps/support/audit の下に配布され、Nsure Audit プロセスを通じてインストールされます。次のセクションで説明されているように、Nsure Audit iManager プラグインを通じて手動でインストールできます。

Nsure Audit に関する追加情報については、[Novell[®] Nsure Audit ホワイトペーパー \(http://www.novell.com/collateral/4621347/4621347.html#3\)](http://www.novell.com/collateral/4621347/4621347.html#3) を参照してください。

iManager での IMAN_EN.LSC ファイルのインストール

IMAN_EN.LSC ファイルをインストールする前に、Nsure Audit 1.0.3 をインストールしてください。

- 1 iManager にログインします。
- 2 [Auditing and Logging (監査およびログ記録)] 役割を選択します。
- 3 [Logging Server Options (ログサーバオプション)] タスクを選択します。
- 4 ログサーバオブジェクトを参照して選択し、[OK] をクリックします。
- 5 [Log Applications (ログアプリケーション)] タブをクリックします。
- 6 [Applications (アプリケーション)] を選択します。
- 7 [Applications Actions (アプリケーションのアクション)] リンクをクリックし、[次へ] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックし、コンテナ内に新しいログアプリケーションを作成します。
- 9 ログアプリケーション名を指定します。
- 10 IMAN_EN.LSC ファイルをインポートするには、[参照] をクリックし、TOMCAT_HOME¥webapps¥nps¥support¥audit ディレクトリ内にある IMAN_EN.LSC ファイルを選択し、[OK] をクリックします。

これで、新しいログアプリケーションが [Applications (アプリケーション)] コンテナの下に表示されます。

iManager での監査の有効化

- 1 iManager にログインします。
- 2 [設定] ビューで、[iManager の設定] > [iManager の設定] の順にクリックします。
- 3 [Nsure Audit を有効にする] を選択し、記録するイベントを選択して [保存] をクリックします。

6

iManager の設定とカスタマイズ

この章では、Novell® iManager の設定に関するさまざまな機能について説明します。トピックは、インタフェースに表示される順序で示されています。

iManager にアクセスし、[設定] アイコンをクリックします。インタフェースの左側にある [設定] メニューには、次の役割が表示されます。

- ◆ 役割ベースサービス (41 ページ)
- ◆ 暗号化属性と保護された通信 (53 ページ)
- ◆ RBS レポート (54 ページ)
- ◆ iManager サーバ (58 ページ)
- ◆ オブジェクト作成リスト (63 ページ)
- ◆ Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール) (63 ページ)
- ◆ 電子メール通知 (64 ページ)
- ◆ ビュー (65 ページ)

重要： 役割ベースサービス (RBS) の使用はオプションですが、iManager ソフトウェアを最適に使用するために役割ベースサービスを設定することをお勧めします。Plug-In Studio を使用するために、RBS を eDirectory™ ツリー内で設定する必要があります。

RBS オブジェクトの変更や削除を行う際は Novell ConsoleOne® を使用しないでください。RBS オブジェクトの管理には、iManager のみを使用してください。

役割ベースサービス

iManager を使用すると、ユーザに特定の責任を割り当て、その一連の責任を遂行するために必要なツールを、付随する権利と共にユーザに提供できます。この機能は、RBS (役割ベースサービス) と呼ばれます。

役割ベースサービスは、eDirectory スキーマの拡張セットです。RBS は、オブジェクトクラスおよび属性を定義します。オブジェクトクラスおよび属性は、管理者が組織内のユーザの役割に基づいて管理タスクへのアクセス権をユーザに与えるためのメカニズムを提供します。これにより、ユーザが実行する必要があるタスクにのみアクセスできるようにします。RBS は、割り当てられたタスクを実行するのに必要な権利のみを付与します。

注： Novell iManager の役割ベースサービス (RBS) アクセス制御では、Novell eDirectory™ のアクセス制御リスト (ACL) 機能に基づいて権利を付与します。これらの ACL を使用すると、トラスティは特定のオブジェクトまたはそのサブオーディネートオブジェクトに権利を付与できます。ACL は、特定のオブジェクトタイプに基づいて付与されるわけではありません。各 Novell iManager タスクで、適用可能なオブジェクトタイプと必要な ACL が定義されます。ただし、これらの ACL によって、ユーザは eDirectory API または Novell ConsoleOne や NWAdmin などのツールを使用して、他のオブジェクトタイプへの操作を実行できます。

RBS を使用して、組織内の特定の役割を作成します。役割には、割り当てられたユーザが iManager 内で実行できるタスク（新しいユーザの作成やパスワードの変更など）が含まれます。タスクは役割に事前に割り当てられています。ただし、タスクの置き換え、再割り当て、削除を行うことは可能です。

さらに、ユーザは特定のスコープ内の役割に関連付けられます。スコープは、そのユーザがタスクを実行するために必要な権利を持つ、ツリー内のコンテナです。役割では、役割、メンバー、スコープという 3 つの部分の関連付けが行われる必要があります。

RBS 役割オブジェクトは、ユーザとタスクの間の関連付けを作成します。管理者は、ユーザをタスクの割り当てられている役割のメンバにすることにより、そのユーザにタスクへのアクセス権を付与します。

ユーザを役割に割り当てる方法には、次のようなものがあります。




- ◆ ユーザとして直接割り当てる
- ◆ グループおよびダイナミックグループの割り当てを使用する
ある役割に割り当てられているグループまたはダイナミックグループのメンバーであるユーザは、その役割にアクセスできます。
- ◆ 職種の割り当てを使用する
ある役割が割り当てられている職種に属するユーザは、その役割にアクセスできます。
- ◆ コンテナの割り当てを使用する
ユーザオブジェクトは、親コンテナに割り当てられているすべての役割にアクセスできます。これには、ツリーのルートまでの他のコンテナも含まれます。

1 人のユーザに対し、1 つの役割を 1 回ごとに別のスコープで複数回関連付けることができます

eDirectory 内の RBS オブジェクト

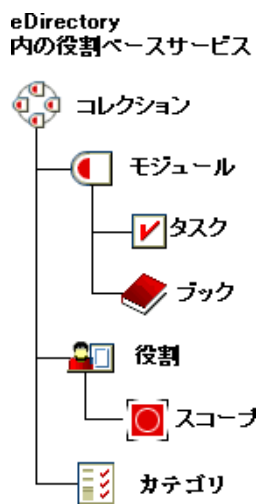
次の表は、RBS オブジェクトの一覧です。iManager では、RBS のインストール時にこれらのオブジェクトを含めるために、eDirectory スキーマを拡張します。詳細については、[RBS のインストール \(45 ページ\)](#) を参照してください。

オブジェクト	説明
 rbsCollection	<p>すべての RBS 役割オブジェクトとモジュールオブジェクトを格納するコンテナオブジェクトです。</p> <p>rbsCollection オブジェクトは、すべての RBS オブジェクトの最上位コンテナです。1 つのツリーに、任意の数の rbsCollection オブジェクトを格納できます。これらのオブジェクトの所有者は、コレクションを管理する権利を持つユーザです。</p> <p>rbsCollection オブジェクトは、次のいずれかのコンテナに作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ 国◆ ドメイン◆ 地域◆ 組織◆ 部門
 rbsRole	<p>役割の定義作業は、rbsRole オブジェクトの作成と作成した役割で実行できるタスクの指定から構成されます。</p> <p>rbsRoles は、rbsCollection コンテナ内でのみ作成できるコンテナオブジェクトです。</p> <p>役割のメンバーになることができるのは、ユーザ、グループ、組織、職種、部門です。役割のメンバーは、ツリー内の特定の範囲で役割に関連付けられます。rbsTask オブジェクトと rbsBook オブジェクトは、rbsRole オブジェクトに割り当てられます。</p>
 rbsTask	<p>ログインパスワードのリセットなど、特定の機能を保持するリーフオブジェクト。</p> <p>rbsTask オブジェクトは、rbsModule コンテナ内でのみ配置されます。</p>
 rbsBook (aka プロパティブック)	<p>ブックは、一連のページを表示するリーフオブジェクトです。ユーザは、このページを使用することで、オブジェクトのプロパティまたは同じタイプのオブジェクトのセットを表示したり変更したりできます。ブックの各ページにはタブがあり、このタブをクリックすることで別のページを表示することができます。</p> <p>ブックオブジェクトは、rbsModule コンテナ内でのみ格納され、1 つ以上の役割または 1 つ以上のオブジェクトクラスタイプに割り当てられます。</p>

オブジェクト	説明
 rbsScope	<p>各ユーザオブジェクトについて割り当てを行う代わりに ACL 割り当てを行う場合に使用するリーフオブジェクト。rbsScope オブジェクトは、役割が実行されるツリー内のコンテキストを表し、rbsRole オブジェクトに関連付けられます。これらは、グループクラスから派生します。ユーザオブジェクトは、rbsScope オブジェクトに割り当てられます。これらのオブジェクトは、関連付けられているツリーのスコープを参照できます。</p> <p>オブジェクトは必要に応じて動的に作成され、不要になれば自動的に削除されます。これらのオブジェクトは、rbsRole コンテナ内にのみ配置されます。</p> <p>警告： rbsScope オブジェクトの設定は変更しないでください。変更すると、重大な結果が生じ、システムが中断する可能性があります。</p>
 rbs モジュール	<p>rbsTask オブジェクトと rbsBook オブジェクトを保持するコンテナオブジェクトを表します。rbsModule オブジェクトには、タスクまたはブックを定義する製品名を表すモジュール名属性があります（たとえば、eDirectory Maintenance Utilities、NMAS™ Management、Novell Certificate Server™ Access など）。</p> <p>rbsModule オブジェクトは、rbsCollection コンテナ内にのみ作成できます。</p>
 rbs カテゴリ	<p>カテゴリは、特定の機能に固有の役割とタスクをグループ化します。iManager には、次の 14 個のデフォルトカテゴリがあります。認証パスワード、コラボレーション、ディレクトリ、ファイル管理、Identity Manager、インフラストラクチャ、インストールとアップグレード、ネットワーク、Nsure Audit、印刷、セキュリティ、サーバ、ソフトウェアライセンスとネットワークの使用法、使用状況、ユーザとグループ。</p> <p>[すべてのカテゴリ] の選択内容には、使用できるすべての役割とタスクが表示されます。</p> <p>新しいカテゴリを作成し、これらに役割とタスクを割り当てることができます。</p>

RBS オブジェクトは、eDirectory ツリー内で次の図のように配置されます。

図 2 eDirectory 内の役割ベースサービス



RBS のインストール

RBS は、iManager 設定ウィザードを使用してインストールされます。

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [RBS の設定] の順に選択します。
- 2 [注意] 内で [iManager の設定] をクリックします。
- 3 画面に表示される手順に従います。

RBS の設定

RBS の設定タスクにより、RBS オブジェクトを完全に制御できます。RBS オブジェクトは、このタスクで集中的に管理および設定します。RBS オブジェクトはタイプ別に一覧表示し、変更できます。また、このタスクではコレクション内のモジュール数、インストールされている RBS の数、インストールされていない RBS の数、古くなった RBS の数などの RBS システムに関する有用な情報が表示されます。一部の操作は、同時に複数のオブジェクトに対して実行できます。たとえば、役割から一度に複数のメンバーを関連付けたり、分離させたりできます。

コレクションはツリーの最上位のコンテナです。ここには、他のすべての役割とオブジェクトが格納されます。コレクションは、国、ドメイン、地域、組織、部門内に設定できます。ツリー内に複数のコレクションを設定したり、1つのコレクションに複数の所有者を設定したりすることができます。このような所有者には、コレクションに対するスーパーバイザ権が付与されます。

[設定] > [役割ベースサービス] > [RBS の構成] の順にクリックすると、[RBS の設定] ウィンドウが表示されます。RBS のサービスがまだ iManager で構成されていない場合、ウィンドウ上にあるリンクをクリックして、画面に表示される手順に従います。

[RBS の設定] 画面には、次の 2 つのタブが表示されます。

- ◆ iManager 2.x コレクション：RBS オブジェクトの現在のコレクション
- ◆ iManager 1.x コレクション：削除するか、2x に移行できる、RBS オブジェクトの古いコレクション。[移行] を選択した場合は、ウィザードに従って移行プロセスを実行します。

所有しているコレクションのみが表示されます。

- ◆ [モジュール] には、ログインしている Web サーバ上にあるモジュールの数が表示されます。
- ◆ [インストール済み] には、現在インストールされているモジュールの一覧が表示されます。インストールされていないが使用できるモジュールだけでなく、古いモジュールが表示されます。

[役割] タブ

[RBS の設定] ページでは、役割、タスク、プロパティブックを作成できます。

新しい役割の作成

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [新規] > [iManager の役割] の順にクリックします。
iManager 役割作成ウィザードが表示されます。
- 3 ウィザードに表示される手順を実行します。

役割の編集

- 1 コレクションを選択します。
- 2 役割を選択し、[編集] をクリックします。
役割のタスクの一覧が表示されます。
- 3 このページでタスクを追加または削除して、[OK] をクリックします。

役割の削除

- 1 コレクションを選択します。
- 2 役割を選択し、[削除] をクリックします。
次のメッセージが表示されます。「この操作は選択中の役割をすべて削除します。続行しますか？」
- 3 [OK] をクリックします。

メンバーの関連付けの設定

- 1 コレクションを選択します。
- 2 役割を選択して、[アクション] > [メンバーの関連付け] の順にクリックします。
- 3 役割のメンバーとスコープを定義します。
- 4 スコープから権利を割り当てます。

デフォルトでは [割り当てられた権利] が選択されています。つまり、すべての ACL 割り当てが行われます。どの権利も割り当てずに、役割のみをメンバーに割り当てる場合は、このオプションの選択を解除します。

デフォルトでは、ドロップダウンメニューの [サブツリー] が選択されています。つまり、この役割のメンバーは、サブツリー全体に対する権利を持ちます。権利をコンテナのみに設定する場合は、[ベースオブジェクト] を選択します。

カテゴリの割り当て

- 1 コレクションを選択します。
- 2 役割を選択して、[アクション] > [カテゴリの割り当て] の順にクリックします。
[カテゴリの割り当て] ページが表示されます。
- 3 カテゴリを選択し、右矢印をクリックしてこのカテゴリを役割に割り当てます。
- 4 [OK] をクリックします。

役割への説明の追加

- 1 コレクションを選択します。
- 2 役割を選択して、[アクション] > [説明] の順にクリックします。
- 3 テキストボックスに説明を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

[タスク] タブ

タスクは、ユーザの作成やパスワードの設定などの明確な管理機能を実行するプラグインです。iManager では、ウィンドウの左側のナビゲーション領域に、グループ別にタスクを表示します。[タスク] タブを使用すると、タスクの作成、変更、削除を行うことができます。

新しいタスクの作成

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [タスク] > [新規] の順にクリックします。
iManager タスク作成ウィザードが表示されます。
- 3 ウィザードに表示される手順を実行します。

Plug-in Studio でタスクを作成する方法の詳細については、51 ページの「[Plug-In Studio からの新しいタスクの作成](#)」を参照してください。

タスクの削除

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [タスク] をクリックし、タスクを選択します。
- 3 [Delete] をクリックします。
次のメッセージが表示されます。「この操作は選択中のタスクをすべて削除します。続行しますか？」
- 4 [OK] をクリックします。

タスクの役割の割り当ての編集

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [タスク] をクリックし、タスクを選択します。
- 3 [役割の割り当て] をクリックします。
- 4 [役割の割り当ての編集] ページで、使用できる役割を右クリックして、タスクに割り当てます。
- 5 [OK] をクリックします。

タスクへの説明の追加

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [タスク] をクリックし、タスクを選択します。
- 3 [アクション] > [説明] の順にクリックします。
- 4 テキストボックスに説明を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

[プロパティブック] タブ

プロパティブックには、変更できるプロパティのページが表示されます。これらのプロパティは、オブジェクトまたは同じタイプのオブジェクトセットのプロパティです。管理者は、属性を表示および変更するために、ConsoleOne[®]と同様のオブジェクトベースの方法でプロパティブックを使用します。その他は、役割ベースの方法でプロパティブックのページを使用します。

プロパティブックは、役割に割り当てられ、役割のタスクの一覧に表示されます。たとえば、ユーザオブジェクトの属性を変更するプロパティブックには、ユーザのログインスクリプトを指定できるページがあります。別のページでは、ユーザの電子メールアドレスと電話番号を変更できます。

プロパティブックのページは、タスクと似ています。ただし、タスクでは、1つのビューで属性を表示したり変更したりします。より複雑なウィザードのようなUIの場合、タスクを作成する必要があります。

新しいプロパティブックの作成

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [プロパティ] > [新規] の順にクリックします。
- 3 [プロパティブックの作成] ウィザードに表示される手順を実行します。
 - ◆ プロパティブックに名前を付け、保存先になるモジュールを選択し、説明（オプション）を入力し、編集するまたは編集しない複数のオブジェクトを選択します。
 - ◆ オブジェクトタイプを割り当てます。
 - ◆ ページを割り当てます。
 - ◆ 役割を割り当てます。

プロパティブックの削除

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [プロパティ] をクリックし、プロパティブックを選択します。
- 3 [Delete] をクリックします。

プロパティブック内の役割の割り当ての変更

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [プロパティ] をクリックし、プロパティブックを選択します。
- 3 [アクション] > [役割の割り当て] の順にクリックします。
- 4 使用可能な属性を右クリックして、役割に割り当てます。
- 5 [OK] をクリックします。

プロパティブックのページリストの変更

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [プロパティ] をクリックし、プロパティブックを選択します。
- 3 [アクション] > [ページリスト] の順にクリックします。
- 4 ページリストを変更し、[OK] をクリックします。

プロパティブックのオブジェクトタイプの割り当ての変更

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [プロパティ] をクリックし、プロパティブックを選択します。
- 3 [アクション] > [オブジェクトタイプの割り当て] の順にクリックします。
- 4 右クリックして使用可能なオブジェクトタイプを割り当てます。
- 5 [OK] をクリックします。

プロパティブックの説明の変更

- 1 コレクションを選択します。
- 2 [プロパティ] をクリックし、プロパティブックを選択します。
- 3 [アクション] > [説明] の順にクリックします。
- 4 説明を入力し、[OK] をクリックします。

[モジュール] タブ

[モジュール] ページには、選択したコレクションに現在インストールされている RBS モジュールが一覧表示されます。これには、RBS のプロパティブックとタスクのみ含まれます。モジュールの追加（カスタムプロパティブックを作成する場合）およびモジュールの削除を実行できるほか、選択したプラグインモジュールの説明を入力することもできます。

新しいプラグインモジュールの追加

- 1 [New] をクリックします。
モジュールの作成ウィザードが表示されます。
- 2 RBS モジュール名を入力し、コレクションを参照します。
- 3 [OK] をクリックします。
確認メッセージが表示されます。

RBS モジュールの削除

- 1 モジュールを選択し、[削除] をクリックします。
削除を実行すると、モジュールコンテナ内のすべて（プロパティブックとタスク）が削除されます。
- 2 [OK] をクリックして削除操作を確定します。

説明の追加

- 1 モジュールを選択します。
- 2 [アクション] > [説明] の順にクリックします。
- 3 RBS モジュールに関する説明を追加します。

[カテゴリ] タブ

カテゴリは、特定の機能に固有の役割とタスクをグループ化します。たとえば、認証とパスワード、コラボレーション、ディレクトリ、ファイル管理、Identity Manager はカテゴリです。カテゴリを追加および削除できるほか、選択したカテゴリの説明も入力できます。

新しいカテゴリの追加

- 1 [New] をクリックします。
カテゴリの作成ウィザードが表示されます。
- 2 カテゴリに名前を指定します。
そのカテゴリが属するコレクションが、次のテキストボックスに表示されます。
- 3 (オプション) 新しいカテゴリに関する説明を追加して、[次へ] をクリックします。
- 4 新しいカテゴリに関連付ける役割を選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 新しいカテゴリの概要を確認して、[完了] をクリックします。

カテゴリの削除

カテゴリを削除すると、役割にカテゴリが割り当てられないままになる場合があります。

- 1 カテゴリを選択し、[削除] をクリックします。
- 2 [OK] をクリックして削除操作を確定します。

説明の追加

- 1 カテゴリを選択します。
- 2 [アクション] > [説明] の順にクリックします。
- 3 カテゴリに関する説明を追加します。

RBS の削除

役割ベースサービスがツリー内で必要なくなった場合には、iManager を通じて、RBS コレクションオブジェクトを安全に削除できます。RBS コレクションを削除すると、ツリー内のすべてのユーザの役割の関連付けおよびスコープは自動的に削除されます。ConsoleOne などの他のユーティリティを使用して RBS コレクションを削除しないでください。

[RBS の設定] タスクを使用して RBS を削除します。

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [RBS の設定] の順に選択します。
- 2 削除するコレクションを選択します。
- 3 [Delete] をクリックします。

RBS コレクションが削除された後で、iManager にログインしているすべてのユーザは、ツリー内に RBS コレクションがない場合でも、[割り当てられたアクセス] モードに入ります。

[無制限] モード (デフォルトモード) に戻るには、次の手順に従います。

- 1 [設定] で、[iManager サーバ] > [iManager の設定] の順に選択します。
- 2 [RBS] をクリックします。
- 3 [RBS ツリーリスト] フィールド内でツリー名を選択し、フィールドの横にあるマイナスボタンをクリックして、そのツリー名を削除します。
- 4 [保存] をクリックします。
- 5 iManager をログアウトし、再びログインします。

Plug-In Studio

Plug-In Studio は、1 日に数回実行するタスクを簡略化するための素早く簡単な方法を提供します。Plug-in Studio を使用すると、最も頻繁に使用する操作のためにタスクを動的に作成できます。Plug-in Studio では、タスクを編集することも削除することもできます。

たとえば、ユーザを変更する場合、[オブジェクトの変更] を選択する代わりに、名前または役職などの選択した属性だけを編集する動的な UI を作成できます。データは \$STOMCAT_HOME/webapps/nps/portal/modules/custom ディレクトリに保存されます（使用している Web サーバプログラムによっては、Web サーバが異なる場合があります）。

Plug-In Studio からの新しいタスクの作成

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [Plug-in Studio] の順に選択します。
- 2 [New] をクリックします。
カスタムタスクとプロパティページの作成に役立つ Task Builder が表示されます。
- 3 次のフィールドに情報を入力して、オブジェクトタイプとプラットフォームを選択します。
 - ◆ 使用可能なクラス：(eDirectory 内のいずれかのクラス)
 - ◆ ターゲットデバイス：デフォルト（サポートされているブラウザ）、ブラウザ (IE)
 - ◆ プラグインタイプ：変更用タスク、プロパティブックページ、作成用タスク、削除用タスク
 - ◆ Add Auxiliary Classes (Auxiliary Class の追加)：(eDirectory)
- 4 [プラグインフィールド] 画面で、以下の項目を選択するか、または入力し、[インストール] をクリックします。
 - ◆ 属性
選択したオブジェクトクラスで使用可能な属性の一覧から属性を 1 つ選択します。
属性をクリックし、選択した属性で使用可能なコントロールをすべて表示します。ダブルクリックしてデフォルトコントロールをそのまま使用し、そのコントロールを [プラグイン] フィールドに移動します。
選択したコントロールの横に 3 つのアイコンが配置されています。
 - ◆ 点滅している赤色のアイコンは必須フィールドを示します。
このアイコンをクリックして値を追加し、[OK] をクリックします。アイコンの点滅が止まります。
 - ◆ 下矢印はコントロールを変更できることを示します。
このコントロールは、属性をクリックしたときに表示されるコントロールと同じです。そのコントロールを、選択した属性で使用可能なコントロールに変更します。
 - ◆ 3 つ目のアイコンは属性を削除します。
 - ◆ コントロール
属性の選択内容が一覧表示されます。

- ◆ プラグインのプロパティ

ページの左側にある [プラグインのプロパティ] の下で、プラグインに ID を割り当て、RBS コレクションにタスクを割り当てます。オブジェクトセクタを起動して RBS コレクションを検索します。役割にタスクを割り当てます。割り当てた役割により、[役割およびタスク] 画面での表示場所が決まります。

たとえば、[ユーザ管理] 役割を選択した場合は、作成プロセス中にいつでも [プレビュー] をクリックすることができます。新しいブラウザウィンドウが開き、タスクを確認して選択したデザインを検証できます。検証後、プレビューを閉じます。[インストール] をクリックすると、タスクを実行する .xml ファイル、.jsp ファイル、および Java ファイルが動的に作成され、システムにインストールされます。

タスクの編集

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [Plug-in Studio] の順に選択します。
- 2 タスクを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 **新しいタスクの作成 (47 ページ)** で説明されている設定を変更し、[インストール] をクリックします。

次の確認メッセージが表示されます。プラグインは正常に作成およびインストールされました。

タスクの削除

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [Plug-in Studio] の順に選択します。
- 2 タスクを選択し、[削除] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックします。

次のメッセージが表示されます。このプラグインを削除しますか？

確認メッセージが表示されます。The plug-in has been successfully deleted. (プラグインの削除に成功しました。)

カスタムタスクのエクスポート

このタスクを使用してカスタムタスクをエクスポートし、他の iManager サーバへ導入できるようにします。

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [Plug-in Studio] の順に選択します。
- 2 エクスポートするタスクを選択します。[アクション] > [エクスポート] の順にクリックします。

カスタムタスクのインポート

このタスクを使用して、他の複数の iManager サーバへカスタムタスクを導入できるようにします。

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [Plug-in Studio] の順に選択します。
- 2 [アクション] > [インポート] の順にクリックします。タスクをインポートする RBS コレクションを参照します。エクスポートした NPM を参照します。[インポート] をクリックします。

メンバーの関連付けの編集

メンバーを役割に関連付けるには、次の2つの方法があります。

- ◆ 46 ページの「メンバーの関連付けの設定」の説明を参照して、メンバーを選択し、そのメンバーをスコープ内の役割に割り当てます。
- ◆ 役割を選択し、その役割を次のようにメンバーとスコープに割り当てます。

メンバーの関連付けの編集機能は、選択したメンバーに役割を割り当てます。

- 1 [役割およびタスク] で、[設定] > [役割ベースサービス] > [メンバーの関連付けを編集] の順に選択します。
- 2 メンバーを指定し、[OK] をクリックします。
このメンバーが割り当てられている役割の一覧が表示されます。
- 3 役割を指定します。
- 4 スコープを指定し、[OK] をクリックします。
このデータは eDirectory に保存されます。ログイン後、新たに割り当てられた役割は、その役割を所有するメンバーの左側の列に表示されます。

所有者コレクションの編集

このタスクを使用すると、所有者を割り当てることにより、RBS オブジェクトの管理を許可できます。

- 1 [役割およびタスク] で、[設定] > [役割ベースサービス] > [所有者コレクションの編集] の順に選択します。
- 2 コレクション所有者を指定し、[OK] をクリックします。
- 3 この所有者が所有できるコレクションを追加または削除して、[OK] をクリックします。

暗号化属性と保護された通信

eDirectory 8.8 では、一部の属性をサーバで暗号化し、保護されていないチャネルから暗号化属性にアクセスできないようにサーバを設定できます。

暗号化属性を使用している場合、iManager ではシームレスなプロセスが試行されます。暗号化属性は、保護されていないチャネルからはアクセスできません。保護された属性へのアクセスが必要な場合、iManager は保護されたチャネル (Secure NCP) を使用するようコンテキストをただちに変更します。その後、属性にアクセスし、コンテキストを通常の状態に戻します。この一連のイベントは、属性の作成、読み込み、および書き込みで発生します。

また、iManager では eDirectory へのすべてのアクセスに、NCP セキュリティ通信を有効にすることもできます。これは、ツリー内のすべてのサーバが、NetWare サーバではない eDirectory 8.8 サーバの場合に限り可能です。

`tomcat location¥webapps¥nps¥WEB-INF¥` に格納されている `config.xml` ファイルに次の設定を手動で追加して、Tomcat を再起動する必要があります。

```
<setting>
<name><![CDATA[Security.SecureNCP.TreeList]]></name>
<value><![CDATA[my_tree_1, my_tree_2]]></value>
</setting>
```

Tomcat を再起動します。

プラットフォーム	再起動コマンド
Windows	Tomcat サービスを停止して起動します。
Solaris	「/etc/init.d/imgr stop」と入力した後、 「/etc/init.d/imgr start」と入力します。
HP*-UX	「/opt/hpws/tomcat/bin/shutdown.sh」と入力した後、 「su www /opt/hpws/tomcat/bin/startup.sh」と入力します。
Linux	「/etc/init.d/novell-tomcat4 stop」と入力した後、 「/etc/init.d/novell-tomcat4 start」と入力します。
Mobile iManager	Mobile iManager をシャットダウンし、再起動します。

RBS レポート

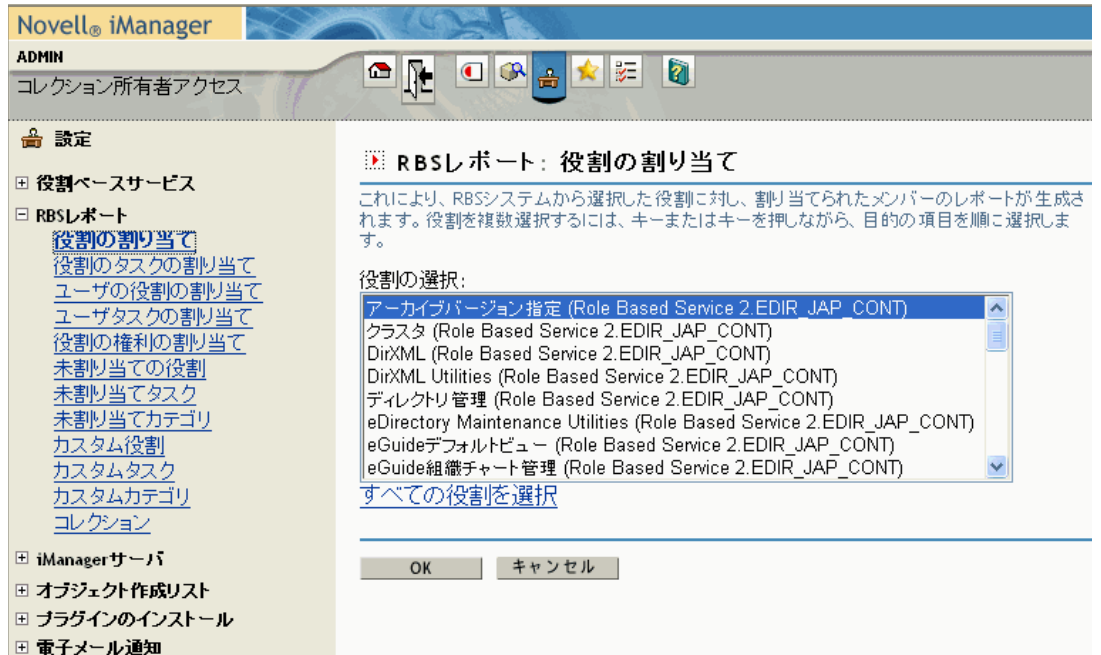
RBS レポート機能では、ディレクトリ内の RBS オブジェクトとその設定に関するレポートを生成できます。レポートは表形式ですが、他の形式でエクスポートして印刷することができます。RBS レポートでは、次のレポートを生成します。

役割の割り当て	未割り当てタスク
役割のタスクの割り当て	未割り当てカテゴリ
ユーザの役割の割り当て	カスタム役割
ユーザタスクの割り当て	カスタムタスク
役割の権利の割り当て	カスタムカテゴリ
未割り当ての役割	コレクション

レポートの作成

RBS レポートにアクセスするには、[設定] ビューを選択し、[RBS レポート] 役割を選択します。各レポートは、タスクとして実装されます。レポートを生成するには、レポートタスクをクリックし、画面に表示される手順に従います。たとえば、レポートにすべてのメンバーの一覧を含めるには、[RBS レポート] > [役割の割り当て] の順にクリックします。

図 3 [役割の割り当て] タスクが表示されている iManager の [設定] ビュー



各レポートでは、割り当てられているメンバーの一覧を生成する役割などの初期情報を入力する必要があります。この情報を入力したら、[OK] をクリックします。iManager によりレポートが生成されます。

レポートの使用

[RBS レポート] タスクで生成されるレポートは、ソート、印刷、およびエクスポートできます。次の図は、iManager レポートの例を示しています。

図 4 役割に割り当てられているメンバー

RBSレポート: 役割の割り当て					
役割名: ディレクトリ管理		日付: 2005年10月4日 (火曜日) (14時42分09秒 CEST)			
役割名	役割オブジェクト	タイプ	メンバー	スコープ	割り当て 継承
ディレクトリ管理	eDirectory Administration.Role Based Service 2.EDIR_JAP_CONT		Admin.EDIR_JAP_CONT	.EDIR_JAP_TREE.	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>

Buttons: OK, 印刷, エクスポート

レポートのソート

デフォルトでは、レポートに一覧表示されている項目は、最初の列を基準にしてアルファベットの昇順でソートされます。項目をソートする基準の列を示すために、列名の横に小さなアイコンが表示されています。アイコンには、ソート順も示されています。項目をソートする基準の列を変更するには、ソートする列の列名をクリックします。ソート順を変更するには、現在項目をソートする基準になっている列の列名をクリックします。

レポートの印刷

[印刷] ボタンをクリックすると、RBS レポートを簡単に印刷できます。これにより、ブラウザの [印刷] ダイアログボックスが開き、プリンタと他の印刷オプションを選択できます。この機能は、レポートが含まれるブラウザのフレームのみを印刷します。レポートは、フレーム内で表示されているように印刷されるので、[印刷] をクリックする前に、項目が希望通りの順序でソートされていることを確認する必要があります。

レポートのエクスポート

レポートのデータを XML、CSV、およびプレーンテキストファイルにエクスポートして、スプレッドシートやデータベースなどの他のアプリケーションで使用できます。エクスポートファイルには、データと、レポートの列を記述するためのメタデータのみが含まれます。レポートのタイトルや日付などの他の情報はエクスポートされません。レポート内の項目は、現在表示されているソート順でエクスポートされます。

- 1 [エクスポート] ボタンをクリックします。
- 2 [RBS レポートのエクスポート] ウィンドウで、エクスポートされるデータの形式を選択し、[エクスポート] をクリックします。
- 3 iManager により生成されたファイルを開くのか、それとも保存するのかを確認するメッセージがブラウザに表示された場合は、目的のオプションを選択し、ブラウザに表示される手順に従います。

同じ RBS レポートからエクスポートされた XML、CSV、およびプレーンテキストファイルの例を次に示します。

XML:

```
<?xml version="1.0"?>
<rbs-report>
  <rbs-record>
    <role-name>eDirectory Administration</role-name>
    <role-object>eDirectory Administration.Role Based Service 2.novell</role-
object>
    <member-type>User</member-type>
    <member-object>admin.novell</member-object>
    <scope>.MY_TREE.</scope>
    <rights-assigned>true</rights-assigned>
    <rights-inherit>true</rights-inherit>
  </rbs-record>
  <rbs-record>
    <role-name>eDirectory Administration</role-name>
    <role-object>eDirectory Administration.Role Based Service 2.novell</role-
object>
    <member-type>User</member-type>
    <member-object>jdoe.novell</member-object>
    <scope>novell</scope>
    <rights-assigned>true</rights-assigned>
    <rights-inherit>true</rights-inherit>
  </rbs-record>
</rbs-report>
```

CSV:

```
" 役割名 "," 役割オブジェクト "," タイプ "," メンバー "," スコープ "," 割り当て "," 継承 ",
"eDirectory Administration","eDirectory Administration.Role Based Service
2.novell","User","admin.novell",".MY_TREE.","true","true",
"eDirectory Administration","eDirectory Administration.Role Based Service
2.novell","User","jdoe.novell","novell","true","true",
```

プレーンテキスト :

```
役割名 :eDirectory Administration
役割オブジェクト :eDirectory Administration.Role Based Service 2.novell
タイプ :User
メンバー :admin.novell
スコープ :.MY_TREE.
割り当て :true
継承 :true
-----
```

```
役割名 :eDirectory Administration
役割オブジェクト :eDirectory Administration.Role Based Service 2.novell
タイプ :User
メンバー :jdoe.novell
スコープ :novell
割り当て :true
継承 :true
-----
```

iManager サーバ

許可されたユーザでない場合は、このタスクは表示されません。59 ページの「許可されたユーザ」を参照してください。

iManager の設定

config.xml ファイルには、次の 3 つの設定があります。これらの設定は、iManager が LDAP SSL 接続を作成するときに使用するセキュリティと証明書を制御します。

- ◆ Security.Keystore.AutoUpdate

AutoUpdate の値が true になっている場合、ユーザが正常に iManager にログインすると、eDirectory サーバからの証明書が自動的に iManager 固有のキーストアにインポートされます。[セキュア LDAP のツリー証明書の自動インポート] 設定を選択します ([iManager の設定] > [セキュリティ] の順に選択します)。

- ◆ Security.Keystore.UpdateAllowAll

Security.Keystore.UpdateAllowAll が true になっている場合、ユーザログインの成功により、証明書が iManager 証明書キーストアにインポート / 更新されます。この設定が false になっている場合、許可されたユーザのログインのみによって、証明書がインポート / 更新されます。

- ◆ Security.Keystore.Priority

keystore.priority 設定には、接続時に証明書の検索順を定義する 2 つの単語が含まれています。system と imanager.system は、SSL コンテキストの作成時に証明書を検索するために、デフォルトの JVM* キーストアを使用します。この検索に失敗した場合、iManager キーストアを検索します。

system と iManager の検索順を変更するには、エントリからどちらかの単語を削除します。

セキュリティを強化するには、AutoUpdate を許可せずに、システムキーストアのみを使用します。この場合、Java に付属しているツールを使用して、デフォルトのシステムキーストアに格納する証明書を手動でインポートする必要があります。UpdateAllowAll を無効にした場合、iManager の許可されたユーザのログインからのみ、証明書のインポートが発生します。

セキュリティ

これらの設定は、Web サーバの設定全体に影響し、config.xml ファイルに保存されます。作業中に保存することも、さまざまなタブページですべての変更作業を終えた後に [保存] をクリックすることもできます。

Warn When Using a Nonsecure Connection (安全でない接続を使用するときに警告する)

次のメッセージによってユーザに警告する場合に選択します。「安全でない接続を使用しています。」この設定は、ブラウザと Web サーバとの間の接続に適用されます。

NSure Audit を有効にする

前提として、Nsure[®] Audit のインストール条件を満たしている必要があります。[NSure Audit を有効にする] オプションを選択し、特定の iManager ログ記録イベントを選択して、[保存] をクリックします。

セキュア LDAP のツリー証明書の自動インポート

セキュア LDAP 接続には証明書が必要です。この機能を選択すると、システムはセキュア LDAP のパブリックツリー証明書を自動的にインポートします。

許可されたユーザ

許可されたユーザは、さまざまな管理タスクを実行できるユーザです。許可されたユーザのデータは `webapps/nps/WEB-INF/configiman.properties` に保存されます。このファイルはインストール時に自動的に作成され、インストールを行った管理者の名前がこのファイルに追加されます。

このオプションを使用すると、`configiman.properties` ファイルを変更できます。指定した名前と一緒にツリー名を含める必要があります (たとえば、`admin.novell.mytree`)。すべてのユーザを許可されたユーザとして指定するには、「**AllUsers**」と入力します。

外観

この画面では、iManager インタフェースの外観をカスタマイズします。外観の情報は、`webapps/nps/WEB-INF/config.xml` に保存されます。

タイトルバー名

このテキストボックスには、組織名を入力します。デフォルトテキスト (Novell iManager) に代わって、組織名が Web ブラウザのタイトルバーに表示されます。

Images (>> -In)

タイトルバーに次の 3 つの画像が表示されます。ヘッダ背景画像、ヘッダフィルター画像、ヘッダブランディング画像。ユーザ独自の画像は、インタフェースに指定されている寸法に合わせる必要があります。

各画像ファイルを `nps/portal/modules/fw/images` に保存します。各画像のパスをそれぞれのテキストフィールドに入力します。

Navigation Menu Colors (ナビゲーションメニューの色)

メニューヘッダの色、および左側のナビゲーションメニューの背景色をカスタマイズできます。

色の名前または 16 進数のいずれかを入力できます。大文字と小文字を区別して入力する必要はありません。[リセット] をクリックしてデフォルトの色と画像に戻すか、[保存] をクリックして選択内容を保存します。

イベントをログに記録

Web サーバによるデバッグのログ記録レベルを選択します。

- ◆ [ログを作成しない]
- ◆ [エラー] (デフォルト)
- ◆ [エラーと警告]
- ◆ [エラー、警告、およびデバッグ情報メッセージ]

ログ出力のオプションを選択します。

- ◆ [標準エラーデバイスへのログ出力の送信]
- ◆ [標準出力デバイスへのログ出力の送信] (デフォルト)
- ◆ [ログ出力を Debug.html ファイルに送信] (デフォルト)

ログファイルのパスとサイズの両方がこのページに表示されます。ログファイルを表示するように選択すると、ログファイルが HTML 形式で表示されます。ログファイルを削除するように選択すると、ログファイルのすべてのデータが削除され、[Log File Size (ログファイルサイズ)] が 0 (ゼロ) バイトにリセットされます。

認証

認証設定は、iManager のログインページに影響します。

ログインアカウント情報を記憶する

このオプションを選択すると、ユーザはログイン時にパスワードのみを入力する必要があります。

自動接続にセキュア LDAP を使用する

iManager が LDAP SSL または LDAP クリアテキストを介して通信するかどうかを指定します。ダイナミックグループや NMAS™ など、一部のプラグインは、このオプションを選択しないと正常に動作しません。この設定は、iManager からログアウトするまで有効になりません。

ログインページでツリーの選択を許可する

このオプションを選択すると、ログインページに [ツリー] テキストボックスが表示されます。このオプションを選択しない場合は、デフォルトのツリー名を設定しておく必要があります。そうしないと、ログインできません。

コンテキストレスログイン

コンテキストレスログインにより、ユーザはユーザ名とパスワードだけでログインできます。ログインの際に、完全なユーザオブジェクトコンテキスト (admin.support など) を理解しておく必要はありません。

ツリー内に同じユーザ名のユーザが複数いる場合、コンテキストレスログインでは、指定されたパスワードを使用して見つかった最初のユーザアカウントを使ってログインしようとします。この場合、ユーザはログイン時に完全なコンテキストを指定するか、コンテキストレスログインが検索する検索先コンテナを制限する必要があります。

[コンテナを検索] オプションを選択し、ログインに対するユーザオブジェクトが見つかるコンテナを指定するか、または [ルートからの検索] オプションを選択して、コンテキストレスログインのツリーのルートから検索します。

- ◆ 検索するコンテナ
特定のユーザを見つけるために iManager が検索する必要のあるコンテナです。
- ◆ パブリックユーザ名

iManager は、デフォルトでパブリックアクセスと接続するので、特定の認証情報は不要です。必要に応じて、特定の認証情報を持つユーザを指定して、コンテキストレス検索を実行できます。ユーザを指定しない場合は、iManager のパブリックユーザが使用されます。

パブリックユーザ名の正しい構文は、*username.context* (admin.novell など) です。

重要: パブリックユーザを指定する場合は、パスワードの有効期限設定を含めるかどうかを慎重に検討してください。パブリックユーザのパスワードに有効期限を設定すると、有効期限が切れてからはログイン中にパスワードを変更できなくなります。

- ◆ パブリックユーザパスワード
[パブリックユーザ名] で指定したユーザのパスワードです。パスワードは暗号化されず、クリアテキストで保存されます。
- ◆ パスワードの再入力
正確を期すために、パスワードを再び入力します。

RBS

役割ベースサービス (RBS) は、タスクを実行する権限を eDirectory で割り当てます。そのため、特定の処理を実行するには、eDirectory ツリー内に権限が必要です。ユーザに役割を割り当てると、RBS はその役割のタスクを実行するために必要な権限を割り当てます。

ダイナミックグループを有効にする

RBS がダイナミックグループを役割のメンバーにすることを許可する場合は、このオプションを選択します。

ダイナミックグループの詳細については、『*Novell eDirectory 管理ガイド*』(<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/fbabihe.html>) の「オブジェクトクラスとプロパティ」セクションの「グループ」を参照してください。

所有コレクション内の役割を表示

このオプションを選択すると、コレクションの所有者には、メンバーであるかどうかに関係なく、すべての役割とタスクが表示されます。選択しない場合は、割り当てられている役割のみが所有者に表示されます。

役割の検出ドメイン、ダイナミックグループ検出ドメイン、ダイナミックグループの検索タイプ、RBS ツリーリスト

ドロップダウン矢印をクリックすると、次の項目のリストが表示されます。

- ◆ 役割の検出ドメイン
このオプションは、iManager がメンバーに割り当てられた役割をツリー内で検索する場所を示します。
 - ◆ ペアレントの場合、iManager はユーザのペアレントコンテナ内で役割を検索します。
 - ◆ パーティションの場合、iManager は eDirectory の最初のパーティションまで役割を検索します。
 - ◆ ルートの場合、iManager はツリー全体で役割を検索します。

- ◆ **ダイナミックグループ検出ドメイン**
このオプションは、iManager がツリー内でダイナミックグループメンバーシップを検索する場所を示します。次に、検出されたダイナミックグループ内で、役割メンバーシップがチェックされます。
 - ◆ ペアレントの場合、iManager はペアレントコンテナまでダイナミックグループを検索します。
 - ◆ パーティションの場合、iManager は eDirectory の最初のパーティションまでダイナミックグループを検索します。
 - ◆ ルートの場合、iManager はツリー全体でダイナミックグループを検索します。
- ◆ **ダイナミックグループの検索タイプ**
このオプションでは、役割メンバーシップを検索する対象のダイナミックグループのタイプを選択します。
 - ◆ ダイナミックグループのみの場合、ダイナミックグループクラスタイプのオブジェクトを検索します。
 - ◆ ダイナミックグループオブジェクトおよび補助クラスの場合、dynamicGroup クラスタイプのオブジェクト、または dynamicGroupAux クラスによって拡張されたオブジェクトを検索します。これには、後でダイナミックグループに変換されたグループオブジェクトも含まれます。
- ◆ **RBS ツリーリスト**
コレクション所有者または役割メンバーが認証する場合、この設定には eDirectory ツリーの名前が自動入力されます。この仕組みにより、RBS が設定されている eDirectory ツリーを効率よく追跡できます。RBS を eDirectory ツリーから削除する場合は、未割り当てアクセスモードに戻るために、このリストから該当するツリーのエントリを削除します。

プラグインダウンロード

Novell のダウンロードサイト (http://download.novell.com/index.jsp?product_id=&search=Search&build_type=SDBuildBean&families=&date_range=&keywords=iManager&x=23&y=4) で、新しいプラグインモジュール (NPM) を検索してください。有効なすべての NPM を表示するか、すでにサーバにインストールされている NPM のアップデートのみを表示するかを選択します。

その他

- ◆ [this] を有効にする
このオプションは無視しても構いません。[[this] を有効にする] は、内部チームが所有するオブジェクトを変更できるようにするために iManager に追加されました。[this] は、特定の自己管理機能を有効にするツリー内の属性です。[this] を有効にする場合は、ツリー内の全サーバのバージョンを 8.6.2 以降にする必要があります。
- ◆ **eGuide URL**
eGuide の URL を指定します。この URL は、ヘッダの [eGuide] 起動ボタンや eGuide の役割およびタスク管理のタスクで使用されます。完全な URL (<https://my.dns.name/eGuide/servlet/eGuide> など) またはキーワード EMFRAME_SERVER を使用する必要があります。EMFRAME_SERVER を使用すると、eMFrame があるサーバ上で eGuide が検索されます。

eGuide の詳細については、[Novell eGuide マニュアル Web サイト \(http://www.novell.com/documentation/eguide212/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/eguide212/index.html) を参照してください。

オブジェクト作成リスト

オブジェクトを作成する場合、オブジェクトクラスのあらかじめ設定されたリストがオブジェクト作成タスクによって登録されます

作成リストへのオブジェクトクラスの追加

この画面では、オブジェクト作成リストにオブジェクトを追加できます。たとえば、[デバイス] を追加して [次へ] をクリックすると、XML ファイルが作成されます。このファイルに、オブジェクトタイプ名、ID、バージョン、必須バージョン、クラス名、およびマージテンプレートという情報が書き込まれます。次に、[完了] をクリックします。これで、[eDirectory 管理] > [オブジェクトの作成] を使用して、デバイスオブジェクトを作成できるようになります。

作成リストからのオブジェクトクラスの削除

このリストには、登録されているオブジェクトが表示されます。

- 1 削除するオブジェクトを選択して、[削除] をクリックします。
- 2 [OK] をクリックします。

これで、作成リストから削除したオブジェクトは表示されなくなります。

Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)

許可されたユーザでない場合は、iManager インタフェースにこのタスクは表示されません。59 ページの「許可されたユーザ」を参照してください。

iManager で使用されるモジュールは 2 種類あります。それは Novell プラグインモジュール (NPM) と RBS モジュールです。

- ◆ Novell プラグインモジュール (NPM)

これらは、iManager のプラグインのファイルが含まれるアーカイブです。[利用できる Novell プラグインモジュール] タスクを使って NPM をインストールすると、iManager の機能を追加するプラグインがインストールされます。

- ◆ RBS モジュール

これらは、RBS タスクオブジェクトと RBS ブックオブジェクトが格納される eDirectory 内のオブジェクトです。eDirectory ツリー内に役割ベースサービスが設定されている場合は、[設定] > [RBS の設定] の順にクリックして、プラグインに関連付けられた新しいタスクが利用可能になるように、NPM の後で RBS モジュールをインストールします。

[モジュールのインストール] は NPM と関連しています。詳細については、『iManager 2.6 インストールガイド』の「Novell プラグインモジュールのインストール、使用、アンインストール」を参照してください。

利用できる Novell プラグインモジュール

[利用できる Novell プラグインモジュール (NPM)] ページには、Packages ディレクトリまたはダウンロードサイトにある、利用可能な NPM が表示されます。(62 ページの「プラグインダウンロード」を参照してください。) 各モジュールの名前、バージョン、および説明は、それぞれの manifest ファイルに表示されます。

[インストールされている Novell プラグインモジュール]

このリストには、iManager にインストールされている NPM が表示されます。各 NPM は、現在の manifest ファイルに含まれる名前、ローカルバージョン、および説明の順に表示されます。

電子メール通知

この役割により、特定のタスクが発生した場合にユーザに通知される、プラグイン固有のタスクを選択できます。タスクはプラグイン自体によって設定されます。選択したイベントについて通知を受けるかどうかを指定し、通知されるユーザも指定します。最初に、メールサーバを設定します。

ヒント： 選択した内容によっては、大量の電子メールを受信する場合があります。

メールサーバの設定

メールサーバの設定により、イベント通知のための SMTP サーバ設定が指定されます。

1 タスクイベント通知で使用する SMTP サーバの設定を行います。

- ◆ 差出人アドレス

電子メールメッセージの [送信者] フィールドに表示されるアドレスです。

- ◆ プライマリメールサーバ

IP アドレスまたはサーバ名 (たとえば、smtp.novell.com)。

SMTP サーバを通じて送信するために必要になるユーザ名とパスワード。

- ◆ セカンダリメールサーバ

(オプション) フェイルオーバーの場合に使用します。

タスクイベント通知

.xml ファイルにタスクが一覧表示されているプラグインが、このページにタスクを自動的に登録します。

1 イベントを選択します。

[次のタスクイベントプロパティ] 画面が表示されます。

2 電子メールの件名を入力します。

3 メッセージを入力します。

4 [追加の電子メールアドレス] テキストボックスに、通知するその他の電子メールアドレスをコンマで区切って入力します。

5 このページで指定した電子メールアドレスだけにメッセージが送信されるようにするには、[デフォルトを上書きしてこれらのアドレスにのみ通知] を選択します。

選択しない場合は、追加されたアドレスだけでなく、[タスクイベント通知] 画面に表示されているアドレスにもメッセージが送信されます。

ビュー

許可されたユーザでない場合は、iManager インタフェースにこのタスクは表示されません。59 ページの「許可されたユーザ」を参照してください。

iManager Views は、iManager 上部のフレームからアクセスできる管理ページです。iManager Views では、[オブジェクトの表示]、[設定] などの特定のビューがユーザに表示されないようにできます。

デフォルトでは、すべてのビューがペアレントセットの設定を継承します。

iManager ビュー

iManager のユーザが使用できるビューを表示または非表示に設定できます。

- 1 特定のアイコンの [Do Not Set to Hide (非表示に設定しない)] というフラグを変更します。
- 2 [このオブジェクトの親コンテナを読み込む] チェックボックスをオンにして、オブジェクトのペアレントコンテナの設定をそのオブジェクトに適用します。
オブジェクトのペアレントコンテナが選択されている場合、この設定が優先されます。
この特定のオブジェクトに対してのみ設定を選択している場合、[このオブジェクトの親コンテナを読み込む] チェックボックスをオンにしないでください。

7

初期設定

[初期設定] アイコンをクリックして、個人の初期設定を設定します。

一般

このセクションでは、次の機能について説明します。

- ◆ [お気に入りの管理 \(67 ページ\)](#)
- ◆ [オブジェクトセクタ \(67 ページ\)](#)
- ◆ [オブジェクトビュー \(68 ページ\)](#)
- ◆ [初期ビューの設定 \(68 ページ\)](#)
- ◆ [使用言語 \(68 ページ\)](#)

お気に入りの管理

最も頻繁に実行するタスクを選択して、整理します。お気に入りをログイン後の初期ビューにすることができます。

オブジェクトセクタ

次の機能の [オブジェクトセクタの設定] を設定します。

- ◆ ウィンドウのサイズ (ピクセル単位のウィンドウの幅、高さ、左カラム幅)
- ◆ ユーザ指定デフォルト
 - ◆ 起動モード
 - ◆ 1 ページあたりの結果数
 - ◆ 開始コンテキスト
 - ◆ 起動時に検索

オブジェクトビュー

次の機能の [オブジェクトビューの設定] を設定します。

- ◆ カラム幅
ピクセル単位
- ◆ 起動モード
[参照] または [検索] を選択します。
- ◆ 選択モード
[シングル] または [複数] を選択します。
- ◆ 1 ページあたりの結果数
[単一選択モード] または [複数選択モード] で、ページに表示する結果の数。
- ◆ 開始コンテキスト
ツリー内で検索を開始する場所と、その場所を毎回使用する必要があるかどうかを指定します。
- ◆ 起動時に検索
[検索] モードのときにオブジェクトビューが開かれた場合は、ユーザが検索条件を入力して [適用] をクリックするまで待つのか、それともタスク固有の検索条件に基づいて初期検索を自動的に実行するのかが選択します。

初期ビューの設定

選択したビューによって、iManager にログインした後に表示されるビューが決まります。

使用言語

iManager の表示画面で使用する言語を選択して、[OK] をクリックします。言語の設定は永続的ではないため、セッションごとに設定する必要があります。この言語設定は一時的な設定であるため、デフォルトの言語設定を永続的にするには、ブラウザオプションで優先的に使用するデフォルト言語を設定します。

注： Web ブラウザの言語の設定で、一覧の上位にある言語（最上部）が、iManager でサポートされている言語に設定されていない場合、プラグインは正常に動作できません。

問題を回避するには、Web ブラウザでたとえば [ツール] > [インターネットオプション] > [言語] の順にクリックして、一覧で上位の優先言語をサポートされている言語に設定します。

8

トラブルシューティング

この章では、Novell® で行った iManager のテストの結果得られたトラブルシューティングのヒントを示します。これらのヒントは、以下のトピックでアルファベット順に説明します。

- ◆ 70 ページの「Apache ポートと Tomcat ポート」
- ◆ 71 ページの「認証エラーメッセージ」
- ◆ 73 ページの「eDirectory 管理タスクエラー」
- ◆ 73 ページの「インストールおよび設定のデバッグメッセージの有効化」
- ◆ 73 ページの「Firefox 1.0.6 の iManager プラグイン機能との非互換性」
- ◆ 74 ページの「(Windows 2000 および Windows 2003 Server) Groupwise 7.0 WebAccess をインストールすると iManager が機能しなくなる」
- ◆ 74 ページの「複数のユーザが同時にログインした場合に履歴の一覧が自動的に同期されない」
- ◆ 74 ページの「iManager がデータベース内で SSL 証明書情報の更新に失敗した」
- ◆ 75 ページの「NetWare 6.5 での iManager 2.6 リモートインストール」
- ◆ 75 ページの「属性、オブジェクト、または値がないというエラー」
- ◆ 76 ページの「Windows IIS サーバでの「ページが見つかりません」エラー」
- ◆ 76 ページの「イメージソフトウェアからのシステム復元の実行」
- ◆ 76 ページの「複数のプラグインをインストール中に、「利用不可能なサービス」というメッセージが表示される」
- ◆ 77 ページの「[設定] ページに [Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] 役割がない」
- ◆ 77 ページの「[設定] ビューに役割またはタスクが表示されない」
- ◆ 78 ページの「「ユニバーサルパスワードステータスを判別できません」エラー」

Apache ポートと Tomcat ポート

iManager 2.6 のアップグレード時にポートの競合が生じている場合や、Apache と Tomcat がどのポートで実行されているのかを調べる場合には、このセクションに示すプラットフォーム固有の情報を確認します。

HP-UX

Apache HTTP ポートの場合、アップグレード時に /opt/hpws/apache/conf (移動していた場合はその移動先) で httpd.conf ファイルを参照します。

Apache HTTPS ポートの場合、アップグレード時に /opt/hpws/apache/conf/ (移動していた場合はその移動先) で sslvhost.conf ファイルを参照します。

Tomcat ポートの場合、/opt/hpws/tomcat/conf/ で server.xml ファイルを参照します。

重要：「Define a Coyote/JK2 AJP 1.3 Connector」 on port *n* と記述されているセクションを探します。リダイレクトポートを Apache SSL と同じポートに設定します。たとえば、Apache がポート 443 上にある場合、Tomcat も同じにする必要があります。

Linux

Apache HTTP ポートの場合、/etc/opt/novell/httpd/gconfd (移動していた場合はその移動先) で vhost.conf ファイルを参照します。

Apache HTTPS ポートの場合、/etc/opt/novell/httpd/gconfd (移動していた場合はその移動先) で sslvhost.conf ファイルを参照します。

Tomcat ポートの場合、/var/opt/novell/tomcat4/conf (移動していた場合はその移動先) で server.xml ファイルを参照します。

SSL 以外のポートは、“Define a non-SSL Coyote HTTP/1.1 Connector” on port *n* で始まります。

SSL ポートは、“Define an SSL Coyote HTTP/1.1 Connector” on port *n* で始まります。

重要：“Define a Coyote/JK2 AJP 1.3 Connector” on port *n* と記述されているセクションを探します。リダイレクトポートを Apache SSL と同じポートに設定します。たとえば、Apache がポート 443 上にある場合、Tomcat も同じにする必要があります。

NetWare

Apache HTTP ポートの場合、sys:¥apache2¥conf に格納されている httpd.conf を参照します。

Apache HTTPS ポートの場合、sys:¥apache2¥conf に格納されている httpd.conf を参照します。

Tomcat ポートの場合、sys:¥tomcat¥4¥conf に格納されている server.xml ファイルを参照します。

Solaris

Apache HTTP ポートの場合、/var/opt/novell/httpd/conf/ (移動していた場合はその移動先) で httpd.conf ファイルを参照します。

Apache HTTPS ポートの場合、/var/opt/novell/httpd/conf/ (移動していた場合はその移動先) で ssl.conf ファイルを参照します。

Tomcat ポートの場合、/var/opt/novell/tomcat4/conf で server.xml ファイルを参照します。

Windows

Windows では、すべてのファイルの場所を変更できます。iManager インストールでデフォルトをそのまま使用した場合、Apache 設定ファイルと Tomcat 設定ファイルを次の場所で検索します。

Apache HTTP ポートの場合、`rootdir¥novell¥apache¥conf` に格納されている `httpd.conf` を参照します。

Apache HTTPS ポートの場合、`rootdir¥novell¥apache¥conf` に格納されている `ssl.conf` を参照します。

Tomcat ポートの場合、`rootdir¥novell¥tomcat4¥conf` に格納されている `server.xml` ファイルを参照します。

設定ファイルが見つからなかった場合は、レジストリを検索します。

認証エラーメッセージ

HTTP 404 エラー

初めて iManager にアクセスしようとしたときに 404 エラーが発生する場合は、Apache が実行されているポートを確認する必要があります。iManager をどのようにインストールしたのか、あるいは Apache か IIS のどちらを使用することを選択したのかによって、設定ファイルの場所は異なります。Apache では、`httpd.conf` ファイルか `ssl.conf` ファイルのいずれかを使用します。IIS ポートの設定については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

HTTP 500 エラー

内部サーバエラーまたはサーブレットコンテナエラー（使用不可またはアップグレード中）が発生する場合は、次の問題のいずれかが Tomcat で発生しています。

- ◆ 再起動後に Tomcat が完全に初期化されていない。
- ◆ Tomcat の起動に失敗した。

数分待つてから、もう一度 iManager にアクセスします。同じエラーが発生する場合は、Tomcat の状態を確認する必要があります。それでも解決しない場合は、Apache の状態を確認します。

Tomcat の状態のチェック

- 1 Tomcat を再起動します。
- 2 Tomcat のログファイルをチェックして、エラーがないか調べます。

ログファイルは、UNIX、Linux、および Windows プラットフォームの `$tomcat_home/logs` ディレクトリにあります。UNIX および Linux では、ログファイルの名前は `catalina.out` または `localhost_log.date.txt` です。Windows では、`stderr` と `stdout` です。

NetWare[®] では、ログ記録画面にエラーが表示されます。

Apache の状態のチェック

- 1 Apache を再起動します。
- 2 Apache のログファイルをチェックして、エラーがないか調べます。
ログファイルは `$apache_home$/logs` ディレクトリにあります。

634 エラーメッセージ

移行元サーバが要求しているコピーが移行先サーバにないか、要求と一致するオブジェクトとそのオブジェクトを検索する照会先が移行元サーバにありません。

考えられる原因の一部を次に示します。

- ◆ 入力したツリーまたは IP アドレスが正しくない。IP アドレスを使用しているとき、eDirectory™ が標準 (524) 以外のポートにインストールされている場合は、ポートを含めていることを確認してください。
- ◆ iManager でタイムアウトになる前にツリーまたは IP アドレスが見つからない。
ツリー名で失敗する場合は、IP アドレスを使用します。

632 エラーメッセージ

このエラーは、考えられる原因 (http://www.novell.com/documentation/nwec/nwec_enu/nwec_ids_t_err_system_failure.html) がいくつかあるシステムエラーです。

601 エラーメッセージ

入力されたオブジェクト名が、指定されたコンテキストで見つかりませんでした。

考えられる原因の一部を次に示します。

- ◆ コンテキストレスログインが無効になっている可能性があります。
- ◆ ユーザオブジェクトが設定された検索先コンテナのリストにない可能性があります。コンテキストレスログインの検索先コンテナに、ユーザの場所を追加するように管理者に依頼するか、または完全なコンテキストを使ってログインします。

669 エラーメッセージ

An invalid password was used, authentication failed, one server tried to synchronize with another one but the target server's database was locked, or a problem exists with the remote ID or public key. (次のいずれかの問題が発生しています。無効なパスワードが使用された、認証に失敗した、あるサーバが別のサーバと同期を取ろうとしたが同期先サーバのデータベースがロックされていた、またはリモート ID かパブリックキーに問題がある。)

考えられる原因の一部を次に示します。

- ◆ 正しくないパスワードを入力した。
- ◆ ツリー内に同じユーザ名を持つ複数のユーザが存在する。コンテキストレスログインでは、指定されたパスワードによって見つかった最初のユーザアカウントを使ってログインしようとします。この場合、ログイン時に完全なコンテキストを指定し、コンテキストレスログインが検索する検索先コンテナを制限します。

eDirectory 管理タスクエラー

eDirectory 管理タスクを実行するには、iManager を使用して管理対象のツリーに対して役割ベースサービスを設定する必要があります。RBS の設定については、[21 ページの第 4 章「役割およびタスク」](#)を参照してください。

詳細については、Novell eDirectory のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/lg/edir871/index.html?page=documentation/lg/edir871/edir871/data/agabn4a.html>) を参照してください。

インストールおよび設定のデバッグメッセージの有効化

インストールに失敗する場合、問題の特定に役立てるために、デバッグメッセージを有効にする必要があります。

- ◆ Linux、Solaris、および HP-UX : iManager InstallAnywhere プログラムの起動元になる、端末セッションで「LAX_DEBUG=true」をエクスポートします。
- ◆ Windows:Ctrl キーを押しながら iManager InstallAnywhere を起動します。Ctrl キーは、デバッグ画面が表示されるまで押し続けてください。

Firefox 1.0.6 の iManager プラグイン機能との非互換性

Firefox* 1.0.6 の出荷バージョンを使用して iManager 2.6 を実行している場合に、タスクを選択すると、404 エラーが発生します。これは Firefox のバグです。このエラーが発生するのは、クリップボードを利用する iManager プラグインを使って、クリップボードのアクセス時に表示されるセキュリティ警告ウィンドウで [Remember this Decision (この説明を記憶する)] を選択した場合です。このバグについては、[Mozilla* バグ追跡システム \(https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=269270\)](https://bugzilla.mozilla.org/show_bug.cgi?id=269270) を参照してください。

この状態になった場合に、実行できる操作は次の 2 つあります。

- ◆ iManager で実行する URL の「iManager.html」を「Simple.html」に変更することにより、シンプルモードで iManager を実行します。
- ◆ 次の手順に従って、Mozilla の prefs.js ファイルを編集します。

1 Firefox ブラウザを閉じます。

2 アカウントの Application Data フォルダに格納されている Mozilla/Profiles フォルダの下にあるフォルダ内で、ブラウザプロファイルの prefs.js ファイルを見つけて、次の行を削除します。

```
user_pref("capability.principal.codebase.pX.denied", "UniversalXPConnect") と  
user_pref("capability.principal.codebase.pX.id", "<iManager URL Root>") の 2 行を削除  
します。
```

“<iManager URL Root>” は、使用している iManager バージョンの URL のルートです。

2 つの設定の “...pX...” の “X” は一致します。

3 ブラウザを再起動します。

4 セキュリティ警告メッセージが引き続き表示される場合、[Allow (許可する)] を選択します。ただし、[Remember this Decision (この説明を記憶する)] は選択しないでください。

(Windows 2000 および Windows 2003 Server) Groupwise 7.0 WebAccess をインストールすると iManager が機能しなくなる

Windows 2000 および Windows 2003 Server で IIS 5 または IIS 6 を使用している場合、Groupwise 7.0 WebAccess を IIS にインストールすると、Tomcat 5.5 が自動的にインストールされます。

iManager のインストールが開始されると、iManager インストーラプログラムによって、IIS と Tomcat が使用可能であることが検出されます。iisadmin サービスを停止できないことがインストーラによって報告されます。インストールの終了間際に、Tomcat を開始できないことがインストーラによって報告されます。

インストールが完了すると、Groupwise WebAccess は引き続き機能しますが、iManager は機能しません (HTTP 404 : ページが見つかりません)。

回避策 : iManager と Groupwise を同じコンピュータにインストールしないでください。

複数のユーザが同時にログインした場合に履歴の一覧が自動的に同期されない

同じブラウザ (Firefox または Mozilla ブラウザ、ただし Internet Explorer は除く) を 2 つ開くことで、この問題を回避できます。その場合は、両方の画面で 1 つの履歴が共有されます。

iManager がデータベース内で SSL 証明書情報の更新に失敗した

iManager では、ユーザによる操作を必要とせずに、保護された LDAP 接続を作成できます。何らかの理由 (新しい組織 CA など) でバックエンドで LDAP サーバの SSL 証明書が更新される場合、iManager では認証された接続を使って新しい証明書を取得し、独自のキーストアデータベースにその証明書をインポートする必要があります。

この処理が行われない場合、強制的に iManager と Tomcat でデータベースを作成し直し、証明書を取得し直すために、iManager が使用する Tomcat 証明書のストアデータベースを削除する必要があります。

- 1 Tomcat をシャットダウンします。
- 2 %TOMCAT_HOME%\webapps\%nps%\WEB-INF ディレクトリに格納されている iMKS ファイルを削除します。
- 3 Tomcat を再起動します。
- 4 自動的に新しい証明書を取得し、データベースストアを作成し直すために、ブラウザで iManager を起動し、ツリーに再ログインします。

または、JDK で使用できる keytool 証明書管理ユーティリティを使って、Tomcat の JVM のデフォルトキーストアに必要な証明書を手動でインポートできます。保護された SSL 接続を作成している場合、iManager ではまず JVM のデフォルトキーストアを確認し、iManager 固有のキーストアデータベースを使用します。

eDirectory の証明書を DER 形式で保存した後、証明書を iManager のキーストアにインポートする必要があります。これを行うには、keytool を使用するために JDK が必要です。iManager によって JRE がインストールされた場合、keytool を使用するために JDK をダウンロードする必要があります。

- 1 コマンドウィンドウを開きます。
- 2 JDK をインストールした場所の bin ディレクトリに移動します。
たとえば、Windows では次のコマンドを入力します。

```
cd j2sdk1.4.1_02\bin
```
- 3 次の keytool コマンド (プラットフォーム固有) を実行して、keytool を使って証明書をキーストアにインポートします。
 - ◆ NetWare

```
keytool -import -alias [alias_name] -file [full_path]\trustedrootcert.der -keystore sys:java\lib\security\cacerts
```
 - ◆ Windows

```
keytool -import -alias [alias_name] -file [full_path]\trustedrootcert.der -keystore [full_path]\jre\lib\security\cacerts
```
 - ◆ UNIX

```
keytool -import -alias [alias_name] -file [full_path]/trustedrootcert.der -keystore [full_path]/jre/lib/security/cacerts
```

alias_name をこの証明書の固有の名前に置き換え、trustedrootcert.der と cacerts への完全なパスを含める必要があります。

たとえば、NetWare の場合、コマンド内の最後のパス (sys:java\lib\security\cacerts) には、キーストアの場所を指定します。これは、iManager をインストールした場所によって決定されるため、システムによって異なります。Windows サーバ上での iManager のデフォルトの場所は c:\Program Files\Novell\jre\lib\security\cacerts です。
- 4 キーストアのパスワードとして「changeit」と入力します。
- 5 [はい] をクリックしてこの証明書を信頼します。

NetWare 6.5 での iManager 2.6 リモートインストール

NetWare 6.5 での iManager 2.6 のリモートインストールが失敗するか正常でない動作をした場合、Novell インストールサービスの一時ファイルを削除してみます。
C:\Program Files\Common Files\にある Novell ディレクトリ全体を削除します。

属性、オブジェクト、または値がないというエラー

大規模なインストールを行って同期遅延が発生する場合、強制的に iManager をマスターレプリカと通信させることができます。このようにすると、追加または変更されたばかりの属性、オブジェクト、値にアクセスできるようになります。これは iManager の通常使用ではお勧めできませんが、同期遅延が発生している場合に役立つ可能性があります。

iManager へのログイン時にこのパラメータを使用するには、ログインページをロードした後で URL の終りに「&forceMaster=true」を追加します。この設定は、webapps/nps/WEB-INF/に格納されている config.xml で有効にできます。config.xml ファイルを変更した後は、Tomcat を再起動する必要があります。

たとえば、次のように変更します。

<https://127.0.0.1/nps/servlet/webacc?taskId=fw.Startup&forceMaster=true>

Windows IIS サーバでの「ページが見つかりません」エラー

サーバで複数の Web サイトが実行されている場合、iManager インストールプログラムは、条件に合う最初のサイト（ほとんどの場合、ポート 80 を使用するデフォルトの Web サイト）を選択します。iManager を別の Web サイトから実行する場合、目的の Web サイトに仮想ディレクトリを作成する必要があります。

- 1 [コントロールパネル] > [管理ツール] > [コンピュータの管理] の順にクリックします。左側の画面で [サービスとアプリケーション] > [インターネットインフォメーションサービス] の順にクリックします。
- 2 iManager 用に設定する Web サイトのアイコンをクリックします。
- 3 [アクション] メニューで、[新規] > [仮想ディレクトリ] の順に選択します。
- 4 仮想ディレクトリの作成ウィザードで、[エイリアス] フィールドに「**jakarta**」と入力します。
- 5 [ディレクトリ] フィールドで、Tomcat ホームディレクトリ (¥bin¥win32¥1386) にある ISAPI リダイレクタディレクトリを参照して、[OK] をクリックします。
- 6 アクセス権については、[読み取り]、[ASP などのスクリプトを実行する]、[ISAPI アプリケーションや CGI などを実行する]、および [書き込み] を選択します。
- 7 仮想ディレクトリを作成するために [次へ] をクリックして、[コンピュータの管理] ウィンドウに戻ります。
- 8 左のフレームで [既定の Web サイト] > [Jakarta] の順に選択し、[Jakarta] を削除します。

iManager では、Jarkarta ディレクトリを作成します。この Web サイトに Jakarta ディレクトリが含まれていない場合、他の Web サイトを参照して、Jakarta ディレクトリのあるサイトを見つけます。

イメージソフトウェアからのシステム復元の実行

システムの復元を Ghost などのイメージソフトウェアから実行した場合、処理中に NPS-APACHE.CONF ファイルが切り詰められる場合があります（このファイルは sys:¥tomcat4¥conf に格納されています）。

このファイルが NPS-APACHE~1.CON や他の破損したファイル名に切り詰められた場合、ファイルの名前を変更し、Apache と Tomcat を停止して再起動します。

複数のプラグインをインストール中に、「利用不可能なサービス」というメッセージが表示される

この状況は、複数のプラグインをすべて同時にインストールするように選択すると発生します。プラグインのインストールは数分にわたって続行されますが、ブラウザでページがタイムアウトして 503 エラーが返されます。

待機する以外に操作は必要ありませんが、Tomcat のログファイルまたは NetWare のログ画面でプラグインのインストールを監視することができます。

[設定] ページに [Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] 役割がない

許可されたユーザでない場合、[Plug-In Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] 役割は表示されません。

`webapps\¥nps¥WEB_INF¥` ディレクトリに移動し、`configman.properties` ファイルを開きます。次の行を追加して、すべての認証されたユーザに [Plug-in Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] 役割が表示されるようにします。

```
AllUsers=true
```

ファイルを保存し、ブラウザを更新すると、[Plug-in Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] 役割が表示されます。この設定を有効にするために、Tomcat を再起動する必要はありません。

これで、すべての認証されたユーザに [Plug-in Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] が表示されます。

特定のユーザに限定したい場合、構文は次のようになります。

```
user.context.TREE_NAME=eDirectory
```

必要な数だけユーザを追加できます。複数の認証されたユーザを指定する場合、構文は次のようになります。

```
user1.context.TREE_NAME=eDirectory
```

```
user2.context.TREE_NAME=eDirectory
```

```
user3.context.TREE_NAME=eDirectory
```

このための GUI インタフェースを表示するには、[iManager] > [設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] > [セキュリティ] タブ (ページの末尾) の順にクリックします。

[設定] ビューに役割またはタスクが表示されない

次の役割またはタスクが [設定] ビューに表示されない場合は、ユーザが認証されているかどうかを確認する必要があります。詳細については、59 ページの「許可されたユーザ」を参照してください。

表示されない可能性のある役割またはタスク

- ◆ [iManager の設定] タスク
- ◆ [オブジェクト作成リスト] 役割
- ◆ [プラグインのインストール] 役割
- ◆ [電子メール通知] 役割
- ◆ [表示] 役割

認証されたユーザでない場合に考えられる理由

- ◆ ツリーの名前を変更した。
configiman.properties ファイルを編集して、各ユーザのツリー名を変更します。
- ◆ iManager のインストール中に、認証ユーザに対して入力した情報が誤っていた。
configiman.properties ファイルを編集して、ツリー名を含む正しいユーザ名を追加します。
- ◆ configiman.properties ファイルが何らかの理由で破損した。
configiman.properties ファイルを削除し、正しい情報でファイルを再作成するか、iManager にログインして [設定] > [iManager サーバ] > [iManager の設定] に移動します。[セキュリティ] ページで、システムに対して認証されたユーザを追加します。ツリーを参照するか、ユーザのフルパスがわかっている場合は手動で入力します。
- ◆ configiman.properties ファイルに対するアクセス権が変更され、iManager がファイルを読み取れなくなった。
同じディレクトリのファイルと一致するように、ファイルに対するアクセス権を変更します。
- ◆ 認証されたユーザとして管理者が追加していなかった。
[許可されたユーザ] リストに追加するように要請します。詳細については、[59 ページの「許可されたユーザ」](#)を参照してください。

「ユニバーサルパスワードステータスを判別できません」エラー

UNIX サーバ用 eDirectory で LDAP 通信に SSL を使用するように設定した場合、iManager でシンプルパスワードを設定するオプションを選択すると次のエラーが表示される場合があります。

ユニバーサルパスワードステータスを判別できません

このエラーを解決するには、UNIX サーバ用 eDirectory で nmasinst ユーティリティを実行します。ユーティリティを使用すると、UNIX マシンから eDirectory にログインメソッドをインストールできます。このユーティリティは、ユニバーサルパスワード機能を実行するためにも必要です。nmasinst ユーティリティは、`¥usr¥bin¥nmasinst` ディレクトリにあります。

詳細については、『[Universal Password Deployment Guide](http://www.novell.com/documentation/lg/nw65/universal_password/data/front.html)』(http://www.novell.com/documentation/lg/nw65/universal_password/data/front.html) を参照してください。

9

ベストプラクティスとよく寄せられる質問

この章では、Novell の技術者から寄せられた次のトピックに関する推奨事項について説明します。成功事例があったら、[Cool Solutions \(http://www.novell.com/coolsolutions/\)](http://www.novell.com/coolsolutions/) で共有してください。

- ◆ バックアップオプションと復元オプション (79 ページ)
- ◆ iManager 2.0.2、2.5、および役割ベースサービスとの共存 (80 ページ)
- ◆ コレクション (80 ページ)
- ◆ インストールの失敗 (80 ページ)
- ◆ 高可用性：クラスタ化された環境での iManager の実行 (82 ページ)
- ◆ iManager へのパッチの適用 (83 ページ)
- ◆ パフォーマンスの調整 (83 ページ)
- ◆ SLES 64-bit での iManager 2.6 の実行 (84 ページ)

バックアップオプションと復元オプション

iManager には自動バックアップおよび復元機能はありません。iManager は次の 2 つの部分で構成されています。サーバ上のローカルファイルと eDirectory™ の役割ベースサービスオブジェクトがあります。

iManager を完全にバックアップするには、レプリカの冗長や eDirectory バックアップソリューションを通じて、RBS コレクションとツリー内のすべての従属オブジェクトの有効なバックアップがあることを確認します。

ファイルシステム上のすべてのローカル iManager ファイルは、Tomcat ディレクトリに保存されます。Tomcat ディレクトリのバックアップがあれば、すべての iManager コンテンツが保存されています。サーバ上の Tomcat ディレクトリで障害が発生した場合、Tomcat をシャットダウンして、iManager を回復するためにディレクトリをコピーし直します。RBS を使用していない場合、必要なのは Tomcat ディレクトリのバックアップのみです。

iManager 2.0.2、2.5、および役割ベースサービスとの共存

RBS コレクションをバージョン 2.6 に更新する必要があります。そうしないと、iManager 2.0.2 からの RBS コレクションのあるツリーにアクセスするのに iManager を使用している場合、表示されるはずの役割およびタスクがすべては表示されません。

- 1 [設定] で、[役割ベースサービス] > [RBS の設定] の順にクリックします。
- 2 更新する必要があるモジュールの [日付が古い] 列にあるリンクをクリックします。
- 3 [日付が古いモジュール] 画面で、モジュールを選択して [更新] をクリックします。

更新の成功を確認するメッセージが表示されます。

更新されたプラグインは、iManager 2.0.2、2.5、および 2.6 で表示されます。

コレクション

ある構成がすべての会社にとって理想的ではないと認識することが重要です。各場所にさまざまな管理者がいる地理的組織または機能的組織によって階層構造を使用している場合にのみ、ツリー内で複数のコレクションを使用することをお勧めします。最も一般的な状況と、それぞれのコレクションを管理する際のヒントを次に示します。

- ◆ 地理的な組織を反映するために編成された階層ツリー
地理的な場所ごとに 1 つのコレクションを作成し、場所ごとに 1 つ以上の iManager を置きます。ログイン時間が短縮され、ツリーナビゲーションが簡略化されます。地理的な場所ごとの管理者が、特定の場所のコレクションを管理します。
- ◆ 会社の組織構造を反映する階層ツリー
組織として同じレベルで 1 つのコレクションを作成し、会社の規模にとって必要な 1 つ以上の iManager サーバを持ちます。1 つのコレクションのみを管理します。
- ◆ すべてのオブジェクトが固有のコンテナ内にあるフラットツリー
固有のコンテナの兄弟としてコレクションを作成し、会社の規模にとって必要な 1 つ以上の iManager サーバを持ちます。1 つのコレクションのみを管理します。

インストールの失敗

インストールの失敗を避けるために、オペレーティングシステムが最新バージョンに更新され、すべてのシステム要件を満たしていることを確認します。『iManager 2.6 インストールガイド』の「**インストール条件**」を参照してください。

インストールの失敗から回復するには、インストール時に生成されたエラーメッセージから問題を判断します。

Windows

- 1 次のいずれかのコンポーネントがエラーに関係している場合、次に示すエラーログファイルを確認します。
 - ◆ NICI の場合は、インストールの一時ディレクトリに格納されている `wnciu0.log` を確認します。
 - ◆ Apache の場合は、iManager がインストールされているディレクトリのルートに格納されている `apache_install.log` を確認します（たとえば、`C:\Program Files\Novell <system.drive>\Program Files\Novell`）。
 - ◆ Tomcat の場合は、Tomcat のインストールディレクトリのルートに格納されている `Apache_Tomcat_InstallLog.log` を確認します（たとえば、`Program Files\Novell\Tomcat`）。
- 2 すべてのエラーについて、iManager install log (`iManager_Install_2.6_InstallLog.log`) ファイルを確認します。

このファイルは、`servlet root/WEB_INF/log` ディレクトリに格納されています。
- 3 問題を識別するのに十分な情報がログファイルになかった場合、デバッグモードでインストールに戻ります。

インストーラからデバッグ出力を表示またはキャプチャするには、コンソール出力を開き、後ほど参照するためにテキストファイルにコピーします。

 - 3a インストーラを起動した直後に、コンソールウィンドウが表示されるまで `<Ctrl>` キーを押し続けてください。
 - 3b インストーラが終了した後、コンソールウィンドウの左上隅にあるアイコンをクリックし、`[プロパティ] > [レイアウト]` の順にクリックします。
 - 3c バッファサイズを `3000` に変更し、`[OK]` をクリックします。
 - 3d `[レイアウト]` ウィンドウで `[編集] > [すべて選択] > [編集] > [コピー]` の順にクリックします。
 - 3e テキストエディタを起動し、そこにデバッグの出力を貼り付けます。
- 4 すべてのエラーまたはスタックトレースを確認して修正し、インストールに戻ります。

HP UX および Solaris

- 1 すべてのエラーについて、iManager install log (`iManager_Install_2.6_InstallLog.log`) ファイルを確認します。

このファイルは、`servlet root/WEB_INF/log` ディレクトリに格納されています。
- 2 問題を識別するのに十分な情報がログファイルになかった場合、デバッグモードでインストールに戻ります。

コマンドラインで、次のコマンドを入力します。

```
export LAX_DEBUG=true
```
- 3 すべてのエラーまたはスタックトレースを確認して修正し、インストールに戻ります。

- 1 すべてのエラーについて、iManager インストールログファイル (/var/log/Novell/iManager_Install_2.6_InstallLog.log) を確認します。
- 2 問題を識別するのに十分な情報がログファイルになかった場合、デバッグモードでインストールに戻ります。
コマンドラインで、次のコマンドを入力します。

```
export LAX_DEBUG=true
```
- 3 すべてのエラーまたはスタックトレースを確認して修正し、インストールに戻ります。

高可用性：クラスタ化された環境での iManager の実行

iManager は、フェールオーバー機能なしで出荷されるセッションベースのツールですが、iManager をクラスタ化された環境で実行できます。『*Clustered Services Administration Guide*』 (http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/cluster_admin_lx/data/h4r4bw6c.html) を参照してください。

- 1 仮想 IP の移動先であるクラスタ（つまり、アクティブ / アクティブクラスタ）内のノード上にある iManager を、インストールして設定します。

iManager を実行するノードで障害が発生した場合、Novell Cluster Services (NCS) は、障害のあるノードを検出し、クラスタ内の別のノード上にある仮想 IP アドレスを移動（再ロード）します。

- 2 Novell Cluster Services に付属している `Generic_IP_Service` テンプレートを使って、iManager という新しいクラスタリソースを作成します。

このクラスタリソースは、クラスタ内のノード間を移動する仮想 IP アドレスを使用します。新しいクラスタリソースを作成する場合、ウィザードに従って、ロードスクリプトとアンロードスクリプトを作成します。

- 3 ロードスクリプトとアンロードスクリプトを検証します。

ロードスクリプトは、次の行のみを含むようにする必要があります（それ以外の行はコメント化する必要があります）。

```
. /opt/novell/ncs/lib/ncsfuncs  
  
exit_on_error add_secondary_ipaddress xxx.xxx.xxx.xxx  
  
exit 0
```

アンロードスクリプトは、次の行のみを含むようにする必要があります（それ以外の行はコメント化する必要があります）。

```
. /opt/novell/ncs/lib/ncsfuncs  
  
ignore_error del_secondary_ipaddress xxx.xxx.xxx.xxx  
  
exit 0
```

- 4 Web ブラウザで `http://web_server/nps/iManager.html` をポイントします (`web_server` は、iManager クラスタリソースで使用される IP アドレスです)。

これで、iManager サービスの可用性が高まりました。ただし、実行中のセッションはフェールオーバーしません。ユーザ操作の途中でサービスで障害が発生した場合、ユーザは中断された操作を再認証して、再開する必要があります。

iManager/tomcat/apache は別のノードですでに実行されているため（アクティブ / アクティブ）、NCS が仮想 IP を別のノードに移行（移動）する場合、これらのアプリケーションを起動する時間はありません。

アクティブ / パッシブクラスタは、多くの設定が必要になり、フェールオーバーのたびにロードしている間に待たされることになるため、使用する利点がほとんどありません。それでも、iManager をアクティブ / パッシブクラスタ化されたリソースとして設定する場合は、iManager とその依存関係（Apache と Tomcat など）をロードおよびアンロードするクラスタリソースを作成する必要があります。iManager の可用性を高めたいすべてのノードで、以上のように iManager を設定する必要があります。

iManager へのパッチの適用

サーバへのパッチの適用は、モジュールのインストールと同じくらい容易です。iManager のすべての更新は、プラグインパッケージ (NPM) ファイルにパッケージ化されます。このファイルは、他のプラグインと同様にインストールされます。

- 1 [設定] で、[Plug-in Module Installation (プラグインモジュールのインストール)] をクリックします。
- 2 利用できる Novell プラグインモジュールを選択します。
- 3 [New] をクリックします。
- 4 パッチファイルの場所に移動して [OK] をクリックします。
- 5 一覧からパッチを選択し、[Install (インストール)] をクリックします。
サーバに最新のコードとともにパッチが適用されます。

パフォーマンスの調整

速度と効率性を向上するには、次のヒントを参考にしてください。

RBS でのダイナミックグループの使用

RBS でダイナミックグループを使用していない場合は、この機能を無効にします。デフォルトでは、ダイナミックグループのサポートが有効になっています。ダイナミックグループを使用すると、広い範囲に及ぶ検索が実行されるため、リソースに非常に負担がかかります。

- 1 [設定] で、[iManager サーバ] > [iManager の設定] の順にクリックします。
- 2 [RBS] をクリックし、[ダイナミックグループを有効にする] をオフにします。

役割の割り当て

同じスコープ内で1つの役割に5つ以上のユーザを割り当てている場合、グループオブジェクトを使って、役割の割り当て数を減らし、RBSの管理の効率が上がるようにすることを検討します。そうすると、更新するオブジェクトの数が減り、メンバを追加および削除してグループオブジェクトを管理できます。

また、ダイナミックグループオブジェクトの使用を検討します。ダイナミックグループの検索条件と一致するように、ユーザオブジェクトを設定できます。

SLES 64-bit での iManager 2.6 の実行

iManager 2.6 は SLES 64-bit で正式にサポートされていませんが、[Cool Solutions \(http://www.novell.com/cool solutions/tip/15487.html\)](http://www.novell.com/cool solutions/tip/15487.html) に示されている手順に従ってテストできます。

A

Novell プラグインモジュール

iManager 2.6 には、base.npm モジュールの次のコンポーネントのみが付属しているため、追加のモジュールを別途インストールする必要があります。

- ◆ ディレクトリ管理
- ◆ パーティションとレプリカ
- ◆ ヘルプデスク
- ◆ スキーマ
- ◆ 権利
- ◆ ユーザ
- ◆ グループ

詳細については、『*iManager 2.6 インストールガイド*』の「**Novell プラグインモジュールのインストール、使用、アンインストール**」と **TID#10095332** (<http://support.novell.com/cgi-bin/search/searchtid.cgi?/10095332.htm>) を参照してください。

注：デフォルトでは、プラグインモジュールは iManager サーバ間で複製されません。必要なプラグインモジュールは、各 iManager サーバ上にインストールすることをお勧めします。

iManager プラグインのサポートに関するマニュアル

ここでは、利用できるプラグインモジュールについて説明し、関連マニュアルへのリンクを示します。一部のプラグインは、iManager バージョン固有およびプラットフォーム固有であるため、使用できない場合があります。

プラグインのタイトルは、iManager 内とまったく同じように、[役割およびタスク] の下に表示されます。マニュアルのリンクには、マニュアルに記載されている通りのプラグイン名が含まれています。

BorderManager

プライベートネットワークをパブリックインターネットに接続する場合、イントラネット上のデータを保護するため、その境界のセキュリティとネットワークパフォーマンスが重要な問題になります。BorderManager により、ネットワーク同士が接している境界を管理および保護できます。境界と言えば最も一般的なものは企業のイントラネットとインターネットの間の境界ですが、会社のイントラネットのセグメント間の境界も管理して保護する必要があります。

[BorderManager に関するマニュアル](http://www.novell.com/documentation/nbm38/index.html) (<http://www.novell.com/documentation/nbm38/index.html>)

Certificate Server

パブリックキー暗号化サービスを提供するプラグインが Novell eDirectory® に本来統合されているため、ユーザおよびサーバ証明書を作成、発行、および管理できます。これらのサービスにより、インターネットなどのパブリック通信チャネルにわたる機密データの伝送を保護できます。

Certificate Server に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/crt27/index.html>)

Configuring E-mail Notification

電子メールサーバを指定し、電子メール通知用に Identity Manager により提供されるテンプレートをカスタマイズできるようにするプラグイン。

Configuring E-mail Notification に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/dirxml20/index.html?page=/documentation/dirxml20/admin/data/bnpdcy4.html>)

DHCP

DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を提供するプラグイン。IP ネットワーク上の個々のコンピュータが各自の設定を DHCP サーバから抽出できるようにします。

DHCP に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/dhcp_enu/data/bcgbgfhi.html#bcgbgfhi)

eDirectory Backup and Restore

複製によってツリーの耐障害性を提供するプラグイン。1 つのサーバが利用できない状態になると、他のサーバがアクセスを提供できます。

eDirectory Backup and Restore に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html>)

eDirectory Log Files

設定されている環境変数とともに、eDirectory サーバが既存のツリーにインストールされている場合は適用されるスキーマ拡張を表示するプラグイン。

eDirectory Log Files に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a2iiiov.html>)

eDirectory Merge

2 つの別々の eDirectory ツリーのルートをマージするプラグイン。

eDirectory Merge に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5qs137.html>)

eDirectory Partition and Merge Management

パーティションは、Novell® eDirectory™ データベースの論理区分であり、管理者が eDirectory 情報を保存および複製するための eDirectory ツリー内のデータの明確な単位を形成します。

eDirectory Partitions に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a6i0f1p.html>)

eDirectory ツリーのマージに関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a6i0f1p.html>)

eDirectory Repair

Novell® eDirectory™ ツリーのデータベースを保守および修復するプラグイン。

eDirectory Repair に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5qs137.html>)

eGuide Content

LDAP データソースの場所に関係なく、人や場所の検索に使用できるブラウザベースのソリューション。

eGuide に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/eguide212/index.html>)

eMBox

Novell® eDirectory™ 管理ツールボックス (eMBox) を使用すると、サーバ上でもリモートでも eDirectory バックエンドユーティリティすべてにアクセスできます。eMBox を Novell iManager と共に使用すると、DSRepair、DSMerge、バックアップと復元、サービスマネージャなどの eDirectory ユーティリティに Web ベースでアクセスできるようになります。

eMBox に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/agabn4a.html>)

File Access (NetStorage)

NetWare の NSS ボリューム上にあるディレクトリとファイルにアクセスするための Web ベースのインタフェースを提供するプラグイン。

NetStorage に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/nw65/index.html?page=/documentation/nw65/nss_enu/data/bu5fihh.html)

FTP Server for NetWare

NetWare® FTP Server ソフトウェアは、NetWare のボリューム間でファイルを安全に移動するための FTP サービスを提供します。NetWare FTP Server を設定するには、iManager を使用します。

FTP Server for NetWare に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/beta/oes/index.html?page=/documentation/beta/oes/ftp_enu/data/front.html#bktitle)

Health Monitoring Services

OpenWBEM CIMOM および Novell® 固有のプロバイダにより生成される、オペレーティングシステムヘルスデータ、メモリプロセス、CPU、およびネットワーク情報を監視するための iManager のインタフェースを提供するプラグイン。

Health Monitoring Services に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/oes/server_health/data/bsbywh8.html)

iFolder Content

モバイルユーザがオンラインでもオフラインでも常に、複数のワークステーションやネットワークにわたってどこからでもローカルファイルにアクセスできる、ネットワークサービスソフトウェアソリューション。

iFolder のマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/ifolder3/index.html>)

iMonitor

Web ブラウザが使用できるネットワークのどこからでもサーバを監視できるようにするプラグイン。

iMonitor に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/edir873/data/a6160f3.html>)

Import Convert Export Wizard (インポートコンバータエクスポートウィザード)

さまざまな形式のデータの読み込みや書き込みが可能なコレクションのハンドラを管理するプラグイン。たとえば、LDIF データを LDAP ディレクトリにインポートする場合、Novell Import Conversion Export エンジン は LDIF ソースハンドラを使って LDIF ファイルと LDAP インポート先ハンドラを読み込んで、LDAP ディレクトリサーバに送信します。

Import Convert Export Utility に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5hgmnu.html>)

iPrint

NetWare および Linux プラットフォームの iPrint 印刷システムを管理および保守するための iPrint プラグイン。ユーザは、プリンタの場所やファイアウォールの前にあるか背後にあるかに関係なく、使用を許可されているすべてのプリンタで印刷できます。

iPrint に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/iprint_nw/data/front.html)

iPrint Health Monitor for Linux

印刷システムを監視および管理できるプラグイン。

iPrint Manager Health Monitor (<http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/iprinthealth/data/akvg04h.html>)

LDAP

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) は、クライアントアプリケーションにディレクトリ情報にアクセスさせるためのインターネット通信プロトコルです。

LDAP に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5hgmnu.html>)

Licenses

NetWare® OES サーバをインストールする場合、インストールプログラムにより自動的に Novell® Licensing Services (NLS) がサーバにインストールされます。iManager を使って NLS を管理します。

Novell Licensing Services に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/nlsadmin/data/hqcrag0y.html>)

Linux User Management

eDirectory ユーザが Linux サーバ上で POSIX ユーザとしての役割も果たせるようにするプラグイン。

Linux User Management (LUM) に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/implgde/data/bny47fh.html>)

Migration

TimeSync から Network Time Protocol (NTP3) にサーバを移行するプラグイン。

Migrating TimeSync Servers to NTP に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/ntp/data/bsfa7qz.html>)

NMAS Plug-in

Novell® Modular Authentication Services は、ネットワークリソースにアクセスする人が自ら名乗っている通りの人であることが保証されるように、Novell eDirectory で認証を受けるさまざまな方法を統合することにより、ネットワーク上の情報を保護するプラグインです。

NMAS に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/nmas23/index.html>)

Nsure Audit

中央集中型のクロスプラットフォーム監査サービスです。Nsure Audit は、複数のプラットフォームにわたる複数のアプリケーションからイベントデータを収集し、単一の否認防止データストアにデータを書き込みます。

Nsure Audit に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/nsureaudit/index.html>)

Novell Certificate Server

インターネットなどのパブリック通信チャンネルにわたる機密データの伝送を保護できるように、ユーザとサーバ証明書の両方を作成、発行、および管理できる、パブリックキー暗号化サービスを提供するプラグイン。

Novell Certificate Server に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/crt27/index.html>)

QuickFinder Server Management

QuickFinder™ (以前の NetWare® Web Search) は、Web ページ上の 1 つの検索フォームから、パブリックおよびプライベート Web サイト、パートナーのサイト、添付ファイルシステムまたはサーバ、インターネット上のその他の多数の Web サイトを対象に、特定の情報を見つけられるようにするプラグインです。

QuickFinder に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/qfserver40/index.html>)

Samba Management

Samba は、Linux コンピュータや他のプラットフォームで、Microsoft SMB/CIFS ネットワークプロトコルを使用するためのツールスイートです。

Samba Management に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/implgde/data/borhcd3.html>)

Service Manager

利用できる eDirectory サービスとそれらの状態に関する情報を提供するプラグイン。Service Manager では、これらのサービスを開始および停止することもできます。

Service Manager に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/agaxi1p.html>)

SMS Backup and Restore

Storage Management Services™ (SMS) は、ネットワークにわたるデータ管理と移行のためのプラットフォームに依存しない戦略を提供する、一連のモジュールと API です。SMS では、開発者が、NetWare プラットフォームだけでなくすべての Microsoft® プラットフォーム、Macintosh®、OS/2、および Unix 上で、データをバックアップおよび復元するために使用されるバックアップエンジンを作成します。

Storage Management Services に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/nw65/index.html?page=/documentation/nw65/nss_enu/data/agqw2v2.html)

SNMP

Simple Network Management Protocol は、管理コンソールアプリケーションと管理されるデバイスとの間で標管理情報を交換するための、インターネットの標準操作および保守プロトコルです。

Simple Network Management Protocol に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5qs137.html>)

Time Sync

Network Time Protocol (NTP) により、NTPv3 準拠のサーバが同期されます。このようなオペレーティングシステムは、NetWare[®]、Linux*、および Solaris* です。

Network Time Protocol に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/ntp/data/bsiynz6.html>)

WAN Traffic Manager

ネットワークコストを削減しながら、WAN リンクにわたるレプリケーショントラフィックを管理するためのプラグイン。

WAN Traffic Manager に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5hykfm.html>)

アーカイブのバージョン

ユーザファイルの間隔ベースのバージョンをキャプチャし、ネットワーク管理者が介入することなくユーザが取得および復元できるアーカイブデータベース内に、ユーザファイルを保存するために、ArkManager に加えて Archive and Version Services for NetWare が使用されています。

Archive and Version Services に関するマニュアル (http://www.novell.com/documentation/oes/index.html?page=/documentation/oes/arc_admin/data/front.html#bktitle)

インデックス

データベースインデックスの管理を可能にするプラグイン。これらのインデックスは、クエリパフォーマンスを高めるために eDirectory で使用されます。

Index Manager に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/edir873/index.html?page=/documentation/edir873/edir873/data/a5hgmmnu.html>)

監査およびログ記録

Novell Nsure (アイデンティティおよびアクセス管理) Audit は、中央集中型のクロスプラットフォーム監査サービスです。Nsure Audit は、複数のプラットフォームにわたる複数のアプリケーションからイベントデータを収集し、単一の否認防止データストアにデータを書き込みます。

Nsure Audit に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/nsureaudit/index.html>)

クラスタ

データ (ボリューム)、アプリケーション、およびサービスなどが含まれている、重要なネットワークリソースの高度な可用性と管理を実現するサーバクラスタリングシステム。

Cluster Services に関するマニュアル (<http://www.novell.com/documentation/nw65/index.html?page=/documentation/nw65/orionenu/data/h4r4bw6c.html>)

ストレージ

保護された、柔軟性と拡張性のある可用性の高いストレージソリューションを作成するのに役立つ NetWare[®] プラットフォームのプラグイン。このツールでは、小規模オフィスのファイルサーバから複雑な耐障害性のある可用性の高いデータセンターまで、広範囲にわたるストレージアーキテクチャを簡略化します。

[Storage Content に関するマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/nw65/pdfdoc/stor_ovw/stor_ovw.pdf\)](http://www.novell.com/documentation/nw65/pdfdoc/stor_ovw/stor_ovw.pdf)

パスワード

パスワード管理プラグインを使用すると、Novell Directory Services (NDS) および eDirectory ユーザ用のパスワードポリシーを中央集中型でリアルタイムに管理および強化できます。

[Password Policies に関するマニュアル \(http://www.novell.com/documentation/password_management/index.html\)](http://www.novell.com/documentation/password_management/index.html)